

ウエペケレ1

六重の喪服を着た男

あらすじ

主人公は父も母もない娘。

私はものごころついた時から誰もいない家に一人でいて、来る日も来る日も掃除をして暮らしていた。

ある日、家に六重の喪服を着た男が現れ、一緒に暮らし始めた。男は猟の名手で、たいへんな働き者だったので、何不自由なく幸せに暮らした。私は娘盛りになると求婚され、やがて子供を身ごもると、夫は喜び、いっそうよく働いた。

夫は、けもの解体や仕掛け弓のしかけ方など、男の仕事まで私に教えてくれたのだったが。

あるとき、夫は自分の境遇を物語る。「石狩で、父母、二人の兄、妹と一緒に暮らしていたのだが、兄たちはなぜか結婚もせず、自分だけが先に妻をもらった。しかし山猟から帰ってみると、妻はいなくなっていた。今まで六回妻をもらったが、皆いなくなってしまったので、家を出て六重の喪服を身を包み、放浪の旅をしていた」というのだ。

その石狩と一緒に来てほしいと請われた私は、身重なので、と一旦は断るが、夫の熱心な誘いに負けて、結局夫の願いを聞き入れることにした。

石狩への道すがら、夫は身重の私を気遣いつつも、木を削りながら進んでいく。わけを尋ねると、帰るときの目印にするという。石狩につくと、「何か恐ろしいことが起こった時には、ここに隠れなさい」と、村の近くの川岸の洞穴に荷物を隠し、父親達の家に向かった。

夫の父親たちの家は、村長の家であった。ちょうど酒宴が始まるところで、父親達は私達を歓迎してくれたかにみえたが、夫は酒に毒を盛られ、殺されてしまう。

悲嘆に暮れる私の前に、先妻（の幽霊）が現れる。女が言うには、夫の器量がいいのをねたんだ父親たちが、嫁たちを殺していたのだ。「早く逃げないとあなたも殺される。敵討ちだけを考えて早く逃げなさい」と告げて女は消える。私は先妻たちの加護によって無事追手を逃れ、夫の言にしたがって川岸の洞穴で男児をもうけ、夫のつけた木の目印に沿って家へと帰ることができたのだった。

夫を失った私は、毎日泣き暮らしていたのだが、子供もやがて弓矢で遊ぶようになり、夫から教わった狩りのしかたを教えると、やがて自分で猟ができるまでに成長したのだった。

……

主人公は、息子に代わる。

私が大きくなったある日、母は父のことを私に語って聞かせる。以来、私は何をすることも敵討ちのことばかり考えて暮らしていたが、ようやくその時を迎えた。

昔、私の父母が石狩へ向かった道を、父がつけた木の目印をたどって石狩へと着いた私は、一家全員皆殺しにして、ごみと一緒に燃やしてしまった。

かけつけた村人たちは、かつて毒殺された私の父をたいそう気の毒がり、「罰が下ったのだ」といって私の敵討ちを喜んでくれた。

父が昔住んだと思われる廃屋に一人立った私は、村人たちに手伝ってもらい先祖を供養した。

「あの世の神々のご加護のおかげで、昔、母も死なずに家へ逃げ帰れたし、今また私も敵討ちを成就することができましたので、神々も喜んでください。そして、殺されてあの世に行けずにいる父や先妻たちも、神の国へと行けますように」と私は祈りの言葉を捧げた。

私はその村の人たちに送ってもらい、母の待つ家へと向かった。家では母が泣いて喜び、村人たちにお礼を言っていたが、その村人たちの一部はそのまま残り、小さな村となって暮らすようになった。

私の母はこのように苦勞ばかりしたけれど、私も母をいたわって暮らし、やがて美しい妻をもらい、子供をもった様子を母も見て、幸せに死んでいった。私は祖父も父も知らずに大きくなったが、先祖を供養しながらたくさんの子供たちに囲まれて年をとったのであるが、「いつまでも祖父母、父を供養しておくれ」と言い残して死んでいくのだ とひとりの男が語った。

- [1]-1 11-000 **マク イキ ワ アナン ペ アネ ルウェ カ** どうして自分がそうなのか
mak iki wa an=an pe a=ne ruwe ka
どう する して いる(私) もの (私)である こと も
- 2 **アエランペウテック ノ, トゥムン トウム タ** わからないけれど, ほこりの中で
a=erampewtek no, tumun tum ta
(私)わからない して ほこり の中 で
- 3 **ヤイエシカルンカアン マッカチ** ものごころついた娘が
yayesikarunka=an¹ matkaci
気がつく(私) 娘
- 4 **アネ ヒネ アナン ワ, オラノ** 私であって, そして
a=ne hine an=an wa, orano
(私)である して いる(私) して それから
- 5 **オナ カ サク ウヌ カ サク ノ** 父もなく母もなく
ona ka sak unu ka sak no
父 も なく 母 も なく して
- 6 **トゥムン トウム タ アナン ペ ネ。オラノ,** ほこりの中で暮らしていた。そして
tumun tum ta an=an pe ne.² orano,
ほこり の中 で 暮らす(私)もの である それから
- 7 **ヤイエシカルンカアン ヒ オラノ** ものごころついた時から,
yayesikarunka=an hi orano
気がつく(私) とき から
- 8 **ケシト アン コロ トゥムン** 毎日ほこりを
kesto an kor tumun
毎日 ほこり
- 9 **エソイネ アルラ アルラ,** 外に運んで運んで,
esoyne a=rura a=rura,
外に (私)運ぶ (私)運ぶ
- 10 **チセ オンナイ アルラ コロ アン。** 家の中(のほこり)を運んでいた。
cise onnay a=rura kor an.
家 の中 (私)運ぶ しつつ いる
- [2]-1 0:32 **オナ カ ウヌ カ アコロ ペ ネ アアン ヒネ,** 私にも父や母がいたのだらう,
ona ka unu ka a=kor pe ne aan³ hine,
父 も 母 も (私)持つ もの である だったろう して
- 2 **ウサ シントコ ネ ヤ パッチ ネ ヤ** いろいろな行器や鉢が
usa sintoko ne ya patci ne ya⁴
いろいろな 行器 や 鉢 や
- 3 **オカ コロカ, トゥムン トウム タ オカ。** あるけれど, どれもほこりの中にあった。
oka⁵ korka, tumun tum ta oka.
ある けれど ほこり の中 に ある

1 ; yay-esikarun-ka 「自分自身を・～を覚えている・させる」

2 ; ウエベケレではこのように自らの生いたち, 家族構成等を明らかにするところから物語が始まるのが一般的である。ここではほこりの中でたった一人で暮らしていたとあり, 家族が誰もいなくなってからかなりの年月が経っていることを示しているが, それがどうした理由なのかは以後も明らかにされていない。

3 ; 「だったのだなあ(ということがあとからわかった)」というニュアンス。「どうしてわかったのか」は, 次行から漆器類や女の道具などが根拠として挙げられている。

4 ; 行器や鉢は漆塗りの製品で, そのほとんどは江戸時代後半から盛んになった北前船の交易によって本州からもたらされたものである。裕福な家ほどその数が多かったとされているので, 主人公の家は過去, 並以上の暮らしぶりであったことがうかがえる。

5 ; okaは「いる, ある」という意味の動詞の複数形で, 単数形はan。以下動詞の単数・複数は訳中に明示せず, 必要に応じて注釈に記した。

- 4 **アウヌフ エイワンケ ワ ネ クニ アラム** 母が使ったと思われる
a=unuhu eywanke wa ne kuni a=ramu
(私の)母 使う して である だろうと (私)思う
- 5 **メノコ エイワンケ ヲ カ アン ヒネ,** 女の道具もあって,
menoko eywanke p ka an hine,
女 使う もの も ある して
- 6 **ネ ワ オカイ ベ アナクネ アウオマレ コロ** それらは片づけながら
ne wa okay⁶ pe anakne a=uomare kor
今言ったこれらのもの は (私)片づける しつつ
- 7 **シツチャシヌレアン。** 掃除した。
sir-casnure=an.⁷
辺りを掃除する(私)
- [3]-1 **トゥムン エソイネ アルラ アルラ コロ アナン** ほこりを外に運んで運んで
0.51 tumun esoyne a=rura a=rura kor an=an
ほこり 外に (私)運ぶ (私)運ぶ しつつ いる(私)
- 2 **アイネ, チセ オンナイ アオケレ ヒ,** ようやく家の中が終わると,
ayne, cise onnay a=okere hi,
したあげく 家 の中 (私)終わる とき
- 3 **オラノ アナクネ チセ ソイ アチャシヌレ,** こんどは外を掃除した。
orano anakne cise soy a=casnure,
それから は 家 外 (私)掃除する
- 4 **チセ オカリ ムンケレケリアン ネ ヤ** 家のまわりのほこりを掃除したり
cise okari mun-kerkeri=an⁷ ne ya
家 周り ほこりを掃きさらう(私) など
- 5 **ナ ネン ネン イキアン。** 他にもいろいろなことをした。
na nen nen iki=an.
まだ あれこれ する(私)
- 6 **ヌサ カ アン ペ ネ クス,** 祭壇もあるので,
nusa⁸ ka an pe ne kusu,
祭壇 も ある もの である ので
- 7 **ネ ヌサ ネ ヤッカ ピリカノ アチャシヌレ コロ** その祭壇もきれいに掃除して,
ne nusa ne yakka pirikano a=casnure kor
その 祭壇 であっても よく (私)掃除する しつつ
- 8 **ケスト ケスト ネノ アナン アイネ,** 毎日毎日そのように暮らしていて,
kesto kesto neno an=an ayne,
毎日 毎日 そのように 暮らす(私) したあげく
- 9 **フムネ アン コロ ケメイキ ネ ヤ アキ コロ** ときどきは針仕事などもして
humne an kor kemeyki⁹ ne ya a=ki kor
ときどきは 針仕事 など (私)する しつつ
- 10 **アナン ペ ネ ア ヲ,** いたところ,
an=an pe ne a p,¹⁰
いる(私) もの だったが

6; okayとokaは同じ意味の動詞だが、方言によって形が変わる。沙流方言では普通okaだが、あとにpaやpeが続く場合のみ、okayという形をとる。

7; casnureは他動詞なのでa=がつくのが本来の形だが、この場合は、sir「辺り」という目的語をとって自動詞として使っているため、=anがついている。[3]-4のmun-

kerkeri=anも同じ。

8; その家で祭られる神々のイナウ(木幣)が立ててあり、幣棚とも言う。礼拝をする場所で、家の東側にある。

9; 針仕事は女の第一の素養で、幼いころから練習する。

10; ここまでが生いたちの説明。ここから本題にはいる。

- [4]-1 シネアント スイ チセ オンナイ カ ある日また(掃除をして)家の中も
1:27 sineanta suy cise onnay ka
ある日 また 家 の中 も
- 2 アオケレ ヒ オケレ ヒ オラ すっかり終わってから
a=okere hi okere hi ora
(私)終わる こと 終わる してから
- 3 ケメイキアン コロ アナン ルウェ ネ アクス, 針仕事をしていると,
kemeyki=an kor an=an ruwe ne akusu,
針仕事する(私) しつつ いる(私) こと である したところ
- 4 エソイネ フマシ クス 外で音がするので
esoyne humas ¹¹ hi kusu
外に 音がする こと だから
- 5 ソイネアン ヒネ インカラアン アクス, 出て見てみると,
soyne=an hine inkar=an ¹² akusu,
外に出る(私) して 見る(私) したところ
- 6 アイヌ ヌカラ カ アエラミシカリ ヲ ネ コロカ, 人間を見たこともなかったけれど,
aynu nukar ¹² ka a=eramiskari ¹³ p ne korka,
人間 見る も (私)したことがない もの だ けれど
- 7 オッカヨ セコン ネ クニ アラム クル 男と思われる人が
okkayo sekor ne kuni a=ramu kur
男 と言う べき (私)思う 人
- 8 ソイ タ アン ヒ ネ ア ヲ, オラ 外にいた。それは
soy ta an hi ne a p, ora
外 に いる こと だったが そして
- [5]-1 イワン チョクサミッ ミ カネ アン 六重の喪服を着た
1:54 iwan cokusamip ¹⁴ mi kane an
六 喪服 着る して いる
- 2 オッカヨ ネ ヒ クス, アアフンケ クス 男の人で, 入るように
okkayo ne hi kusu, a=ahunke ¹⁵ kusu
男 である だから (私)入れる するために
- 3 アイェ アクス オラ アフン ヒネ, 言うと入ってきて,
a=ye akusu ora ahun hine,
(私)言う すると そして 入る して
- 4 オラ シケ エピタ ヒネ ピリカ サッカム 荷物を広げておいしそうな干肉を
ora sike epita hine pirka satkam
そして 荷物 を広げる して よい 干し肉
- 5 サンケ ヒネ イスパレ クス イェ クス 出し, 私に料理するように言うので
sanke hine i=supare ¹⁵ kusu ye kusu
出す して (私)に料理させる ために 言う ので
- 6 アスバ ヒネ アコレ アクス, 料理して差し出した。すると
a=supa hine a=kore akusu,
(私)料理する して (私)与える したところ

11; hum-as「音・立つ」。日本語でも「声を立てる」は言うが、アイヌ語でも「音がする」「雨が降る」「風が吹く」「噂が立つ」等、どれもas「立つ」と表現する。

12; inkarも nukarも「見る」だが、この場合のように、目を向けただけで、特に「何かを」見たわけではない時には inkar(自動詞)、その結果何かに目が行って「~を見た」という時には nukar(他動詞)を使う。「私が見た」のであれば、人称接辞は inkar=an, a=nukar になる。

13; 各辞典ともエラムシカリ eramsikari の形で出ている。

14; iwan c-okus-amip「六つ 裏返した着物」。昔、夫や妻に先立たれた人が着たと言う。6という数字には「数多い」というニュアンスが含まれる。異様な風体だが、物語はこの男の服装が暗示するとおりの展開を見せる。

15; ahun-ke「入る・させる」。supa-reは「料理する・させる」。動詞の語尾について「~させる」を表す語は、-re, -te, -ka, -ke, -e等がある。

- 7 ヤイカタ カ アエ ヤク ピリカ
yaykata ka a=e yak pirka
自分 も (私) 食べ たら いい
自分でも食べたらいい
- 8 セコロ イイエ ヒ クス,
sekor i=ye hi kusu,
と (私に) 言う だから
と私に言うので、
- 9 アエ クシケライボ ピリカ アエ プ
a=e kuskeraypo pirka a=e p
(私) 食べる おかげで よい (私) 食べる もの
おかげでおいしいものを
- 10 アエ ルウェ ネ ア プ,
a=e ruwe ne a p,
(私) 食べる こと であったが
食べられたのだった。
- [6]-1 オラ ニサッタ ネ アニケ,
2:22 ora nisatta ne an hike,
そして 翌日 になる したが
そして翌日になったが、
- 2 ネウン カ アヲパ プ ネ クナク アラム アクス, (男は) どこかへ行くだろうと思ったら
neun ka arpa p ne kunak a=ramu akusu,
どこへ も 行く もの である だろうと (私) 思う したところ
(男は) どこかへ行くだろうと思ったら
- 3 ネウン カ アヲパ カ ソモ キ ノ,
neun ka arpa ka somo ki no,
どこへ も 行く も しなない し て
どこへ行くでもなく、
- 4 オラノ エキムネ コロ ユク セ ワ イワク,
orano ekimne kor yuk se wa iwak,
そして 山に行く して 鹿 背負う して 帰る
山へ行って鹿を背負っては戻り、
- 5 カムイ ネ ヤッカ セ ワ イワク
kamuy ne yakka se wa iwak
熊 であつても 背負う して 帰る
熊までも背負っては戻り
- 6 ランケ コロ アン。
ranke kor an.¹⁶
何度もする しつつ いる
ということが何度もあった。
- 7 エアヲキンネ アリキキ クル ネ アニネ,
earkinne arikiki kur ne an hine,
とても よく働く 人 として ある して
とても働きもので、
- 8 ...ウサ ニナ ネ ヤ ナ ネン ネ ワ
usa nina ne ya na nen ne wa
いろいろ 薪とり など もっと どう である して
薪とりなどなど、何をするのも
- 9 トウラノ オカアン。 ラボッケ,
turano oka=an. rapokke,
一緒に いる(私達) そうしているうち
一緒であった。そうしているうち、
- [7]-1 タネ ボンメノコ ネ アナン ルウェ ネ
2:46 tane ponmenoko ne an=an ruwe ne
今はもう 若い娘 に なる(私) こと である
今は私も年頃になった
- 2 アクス, オラ エネ ハウエアニ。
akusu, ora ene hawean hi.¹⁷
したところ そして 次のように言った
ところ、(男は) こう言った。

16; 狩りが上手であるという描写。アイヌの考え方では、狩りは単なる技術ではなく、神(カムイ)が味方してくれているからこそ獲物がとれるのであって、人徳に数えら

れる。(注60参照)
17; 慣用句で、このあとセリフが続くことを示す。

- 3 「マッ ネ イコン ルスイ」
 “ mat ne i=kor rusuy ”
 妻 として (私を) 持つ したい
 「妻になってくれ」
- 4 セコロ ハウエアン ヒ クス アコパン ヒケ
 sekor hawean hi kusu a=kopan hike
 と 言う ので (私) 断る したら
 と言うので、断っても
- 5 マク イキアン ペ アン セコロ ヤイヌアン,
 mak iki=an pe an sekor yaynu=an,
 どう する(私) もの ある と 思う(私)
 どうするあてもない、
- 6 アイヌ ヌカラ カ アエラミシカリ ノ
 aynu nukar ka a=eramiskari no
 人間 見る も (私) したことがない して
 人間を見たこともなく
- 7 アナン ペ アコパン ヤッカ
 an=an pe a=kopan yakka
 いる(私) もの (私) 拒む であつても
 暮らしていた私が、断ったところで
- 8 エネ イキアニ カ イサム ペ ネ クス,
 ene iki=an hi ka isam pe ne kusu,
 このように する(私) こと も ない もの なので
 どうするあてもないので、
- 9 アエエセ ヒネ マチヒ ネ アナン ヒネ
 a=eese¹⁸ hine macihi ne an=an hine
 (私) 同意する して 妻 に なる(私) して
 承知して妻になって
- 10 トウラノ アナン ルウェ ネ。
 turano an=an ruwe ne.
 一緒に 暮らす(私) こと である
 一緒に暮らすようになった。
- [8]-1 アクス オラノ ポヘネ エヤイコプンテク ワ
 3:18 akusu orano pohene eyaykopuntek wa
 すると そして なおさら 喜ぶ して
 すると (夫は) なおさら喜んで
- 2 アリキキ クル ネ ヒネ, ネッ アエ ルスイ
 arikiki kur ne hine, nep a=e rusuy
 よく働く 人 である して 何 (私) 食べる したい
 働くので、何を食いたいとも
- 3 アコン ルスイ カ ソモ キ ノ アナン。
 a=kor rusuy ka somo ki no an=an.¹⁹
 (私) 持つ したい も しない する して いる(私)
 欲しいとも思わないで暮らしていた。
- 4 オラ ウサ チコイキッ コロ ワ イワク コロ
 ora usa cikoykip²⁰ kor wa iwak kor
 そして いろいろな 獲物 持つ して 帰る と
 そして獲物をとって帰ると
- 5 「タンペ ネノ アリ ヲ ネ」
 “ tanpe neno a=ri p ne ”
 これ そのように (私) 剥ぐ もの である
 「こうさばくのだよ」
- 6 セコン ネ ヤ イエパカシヌ,
 sekor ne ya i=epakasnu,
 と など (私に) 教える
 などと私に教え、
- 7 クアリ ネ ヤ イエパカシヌ コロ
 kuari ne ya i=epakasnu kor
 仕掛け弓 など (私に) 教える しつつ
 仕掛け弓なども私に教えて

18 ; e-e-se 「～について・はい・という」。seは擬声・擬音などにつく言葉。例えば、paw-se 「パウ・という」は、「キツネが鳴く」という意味になる。

19 ; nep a=e rusuy ~ somo ki no a=anは、何不自由なく幸せに暮らしている様を表わす常套句。

20 ; ci-koyki-p 「我々が・獲る・もの」=えもの

- 8 **アナン ペ ネ ア フ,**
an=an pe ne a p,²¹
いる(私) もの だったが いたのだった。
- [9]-1 **タネ トゥラノ アナン ペ ネ クス**
3:45 tane turano an=an pe ne kusu
今では 一緒に いる(私) もの である ので 今は一緒に暮らしているので
- 2 **アコホンコロ ヒネ アクス,**
a=kohonkor hine akusu,
(私) 妊娠する して したところ 子を身ごもったところ,
- 3 **オラノ ポヘネ エヤイコブンテク ワ**
orano pohene eyaykopuntek wa
それから なおさら 喜ぶ して それからなおさら喜んで
- 4 **イエヤム ネ ヤ アリキキ クル ネ ヒネ**
i=eyam ne ya arikiki kur ne hine
(私を) 気遣う など よく働く 人 である して 私を気遣うやら, 仕事に精を出すやらで
- 5 **トゥラノ アナン ペ ネ ア フ,**
turano an=an pe ne a p,
一緒に いる(私) もの だったが 一緒に暮らしていたが,
- 6 **エネ ハウエアニ。**
ene hawean hi.
次のように言った (夫は) 次のように言った。
- [10]-1 **「イシカツ タ アオナ アン,**
4:02 " iskar ta a=ona an,
石狩 に (私の)父 いる 「石狩に父がいて,
- 2 **アウヌ アン ヒネ トウ ユフ アコロ,**
a=unu an hine tu yup a=kor,
(私の)母 いる して 二人の 兄 (私)持つ 母がいて, 二人の兄がいて,
- 3 **アマタキ カ アン ヒネ オカアン ペ ネ ヒケ,**
a=mataki ka an hine oka=an pe ne hike,
(私の)妹 も いる して 暮らす(私達) もの である したが 妹もいて暮らしていたが,
- 4 **マク ネ ワ ネ ヤ アユプタリ**
mak ne wa ne ya a=yuputari
どう である して である か (私の)兄達 どういうわけか兄達は
- 5 **マテトゥンパ カ ソモ キ ノ オカ,**
mat etunpa²² ka somo ki²³ no oka,
女 を嫁にもらう も しない する して いる 妻をもらわないでいた。
- 6 **ラポッケ ヤイカタ アナクネ**
rapokke yaykata anakne
その間 自分で は その間, 私は
- 7 **マテトゥンアン ヒネ マッコロアン コロ,**
mat-etun=an hine matkor=an kor,
嫁をもら(私) して 妻を持つ(私) すると 妻をもらって暮らしていたが,

21; 狩りは男の仕事であり, 夫を持った女には不要な知識であることから, この男が自らの死を予感していることがわかる。この後も男のわけありな行動が続き, 物語後半への伏線となっている。

22; etunpaの-paは, 動詞の語尾について「二人以上/二つ以上が~する」ことを表す。この場合は, 二人の兄の両方とも妻をもらわなかったということ。以下, 動詞に a=, =anなどの人称接辞が何もつかずに語尾に-paがつい

ていれば, 「彼らが」(三人称複数)である場合が多い。(「彼が何度も~する」の場合もある)。

23; アイヌ語と日本語はほとんど語順が同じだが, iteki, somoなど否定, 禁止を表す場合のみ, 日本語とは語順が逆になる。somo ki「しない する」する。itek cis「するな・泣く」泣くな。

somo ki noは慣用句で「せずに」。

- 8 マク ネ ワ ネ ヤ, エキムネアン ヒネ
mak ne wa ne ya, ekimne=an hine
どう である して である か 山獵に行く(私) して
どういうわけか山獵へ行って
- 9 イワカン コロ オアラ イサム ワ,
iwak=an kor oar isam wa,
帰る(私) すると 全く いなくなる して
帰ってくると妻がいなくなっていて,
- [11]-1 アオナウタリ エウンノ アコピシ コロ
4:33 a=onautari eunno a=kopisi kor
(私の)父達 に対して (私)尋ねる すると
両親に訊いても
- 2 ウコエラミシカリ ヤク イェパ コロ
ukoeramiskari²⁴ yak yepa kor
皆知らない と 言う しつつ
誰も知らないと言って,
- 3 イワン マツ タネ アコロ ワ
iwan mat tane a=kor wa
六人の 妻 今では (私)持つ して
六人の妻を今までにもらって
- 4 オピッタ イサム ワクス,
opitta²⁵ isam wakusu,
皆 いなくなる ので
皆いなくなってしまったので,
- 5 ヤイケッテアン ネ ヤ キ ワ,
yaykeste=an ne ya ki wa,
家出する(私) など する して
私は家出して
- 6 チョクサミフ パテク アミ カネ ワ
cokusamip patek a=mi kane wa
喪服 ばかり (私)着た ままで して
ずっと喪服ばかり着て
- 7 オマナナン ペ ネ」
omanan=an pe ne”
旅する(私) もの である
旅していたのだ」
- 8 セコロ ハウェアン コロ アン ペ ネ ア プ,
sekor hawean kor an pe ne a p,
と 言う しつつ いる もの だったが
と言っていたのだが,
- [12]-1 ネア イシカラ オルン アラバ ルスイ ヤク
4:56 nea iskar or un arpa rusuy yak
件の 石狩 の所 へ 行く したい と
その石狩に行きたいと
- 2 イェ コロ イシレン ヒ クス アココパン。
ye kor i=siren hi kusu a=kokopan.
言う しつつ (私に)行こうと誘う なので (私)断る
言って一緒に行こうと誘うので、断った。
- 3 「タネ ヌワエハンケアン ワクス
“ tane nuwap-ehanke=an²⁶ wakusu
今では お産が近くなる(私) なので
「今はお産も近いので
- 4 アトゥラ ヌクリ」セコロ ハウェアナン。
a=tura nukuri” sekor hawean=an.
(私が)一緒に行く しづらい と 言う(私)
一緒には行けない」と私は言った。
- 5 「ヤイコソソアン ナ」
“ yaykososo=an na”
妊娠して腹が大きくなる(私) よ
「私は身重なのですよ」

24; uko-は「互いに」と訳されるが、複数の人間が関わる場合にも用いられ「皆が」と訳される。

25; opittaは、二つ以上あるものの全部、後出のepittaは、一

つのものの全体を言う。ここでは「六人が六人とも」。

26; nuwap-ehanke=an「お産・～が近くなる・私が」。他動詞 ehankeが目的語をとって自動詞化したもの。

- 6 **セコロ ハウエアナン ヤッカ** と言ったけれど、
 sekor hawean=an yakka
 と 言う(私) であっても
- 7 **ネン ポカ イトゥラ ルスイ コロ アン アイネ、** なんとか一緒に連れて行きたがっていて、
 nen poka i=tura rusuy kor an ayne,
 何とか (私を)連れて行く したい しつつ ある したあげく
- 8 **エイタサ イェ ルイ ヒ クス** あまり熱心に言い続けるので、
 eytasa ye ruy hi kusu
 あまり 言う 激しい ので
- 9 **オラ アトゥラ クナク アイェ コロ オラ** ならば一緒に行くと言って
 ora a=tura kunak a=ye kor ora
 そして(私)一緒に行く と (私)言う すると そして
- 10 **アトゥラ ヒネ パイエアン ルウェ ネ ヒネ、** 一緒に行くことになった。
 a=tura hine paye=an²⁷ ruwe ne hine,
 (私)一緒に行く して 行く(私達) こと である して
- [13]-1 **シウエンテアン ペ ネ クス** (身重の)私は歩くのが遅いので
 5.30 siwente=an pe ne kusu
 歩くのが遅い(私) もの である ので
- 2 **ホシキ アヲバ コロ オラ シロトウイェ ネ ヤ** (夫が)先回りして草を刈ったり、
 hoski arpa kor ora sirotuyeye ne ya
 先に 行く しつつ そして 草を刈る など
- 3 **アヲバ ヒ エピッタ ニ ケウレ コロ パイエアン。** 道すがら木を削りながら私たちは進んだ。
 arpa hi epitta²⁸ ni kewre kor paye=an.
 行く 所 みんな 木 削る しつつ 行く(私達)
- 4 **「ヘマンタ ネ エネ ニ ケウレ コロ アヲバ？」** 「どうして木を削りながら行くの？」
 “ hemanta ne ene ni kewre kor arpa? ”
 何のために このように 木 削る しつつ 行く
- 5 **ヒ アイェ ヒケ カ、** と訊いても、
 hi a=ye hike ka,
 こと(私)言う すること も
- 6 **「ネウン カネ ホシピアン コロ** 「どうにかして帰ろうとしたときには、
 “ neun kane hosipi=an kor
 どうにか して 戻る(私) すれば
- 7 **オラ タン アケウレ チクニ アオベシ ヤクン** この削った木に沿えば
 ora tan a=kewre cikuni a=opes yakun
 そして この (私)削る 木 (私)沿う ならば
- 8 **トゥナシノ アウニ ウン シレパアン クス** 早く家に着けるから、
 tunasno a=uni un sirepa=an kusu
 早く (私の)家 に 着く(私) ので
- 9 **ニケウレアン シリ ネ、** 木を削っているのだよ、
 ni-kewre=an siri ne ”
 木を削る(私) 様子 である
- 10 **セコロ ハウエアナン コロ パイエアニ エピッタ** と言って、道すがらずっと
 sekor hawean kor paye=an hi epitta
 と 言う しつつ 行く(私達) 所 みんな

27 ; payeは「行く」の複数形。単数形はarpa。

28 ; 注25参照。この場合は、その前のarpa hi「行く所」を受けていて、「行く途中のどこもかしこも」の意。

- 11 **ニ ケウレ コロ パイエアン,**
ni kewre kor paye=an,
木 削る しつつ 行く(私達)
- 14]-1 **オラ レウシアン ウシ アン コロ**
6:00 ora rewsian usi an kor
そして 泊る(私) 所 ある すると
- 2 **ヤッ チセ カラ ワ, ピリカ ヤッ チセ**
yar cise²⁹ kar wa, pirka yar cise
木の皮 家 作る して よい 木の皮 家
- 3 **カラ ワ オロ タ レウシアン, オラ**
kar wa oro ta rewsian, ora
作る して その場所で 泊る(私) そして
- 4 **ス アナクネ (ホシカリ ニ) ...ニ オロ ワ**
su³⁰ anakne hosikari³¹ ni ni or wa
鍋 は ? 木 の所 から
- 5 **ラチッケレ コロ パイエアン アイネ,**
racitkere kor paye=an ayne,
ぶらさげる しつつ 行く(私達) したげあく
- 6 **ネ イシカツ タ パイエアン ルウェ ネ。**
ne iskar ta paye=an ruwe ne.
その 石狩 に 行く(私達) こと である
- 15]-1 **ウペペ ワッカ.....ペツ カ ポロ ヒ オラ**
6:22 upepe wakka³²... pet ka poro hi ora
雪解け水 川 も 大きくなる 所 から
- 2 **ペックシ タ インネ コタン アン**
petkus ta inne kotan an
川向こう に 人口が多い 村 ある
- 3 **シリキ アクス,**
sirki akusu,
様子が見える したところ
- 4 **「トアン コタン アコタヌ ネ」**
"toan kotan a=kotanu³³ ne"
あの 村 (私の)村 である
- 5 **セコロ ハウエアン コロ**
sekor hawean kor
と 言う しつつ
- 6 **ペツ サム ペカ アツカサツカサン コロ**
pet sam peka apkas-apkas=an³⁴ kor
川 ほとり を 歩く歩く(私) しつつ
- 7 **オカアン アクス,**
oka=an akusu,
いる(私達) したところ
- 木を削っていった。
- そして泊れる場所があると
- 木の皮の家を建て、きれいな仮小屋を
- 建ててそこに泊り、
- 鍋は木から
- ぶらさげながら進んで、とうとう
- その石狩に着いたのであった。
- 雪解け水で川も大きくなったところから
- 川向こうに大きな村がある
- のが見えたところ、
- 「あの村が俺の村だよ」
- と(夫は)言いながら、
- 川沿いになおずんずん歩いて
- いくと、

29; 山猟に行った時など、一時的に寝泊まりする小屋のこと。
kuca「狩小屋」に同じ。

30; もちろん鉄鍋を木にぶらさげた訳ではない。旅先では、
樹皮で作った鍋(ヤラ ス yar su)を用いた。猟に行く時
や旅先では、このように山にあるもので生活物資を代用
し、極力荷物を少なくするよう努めた。

31; 「ホシカリ」と聞こえるが、horikasi「上から」か。後半
の同じ場面ではni ka wa「木・の上・から」と言っている。

32; wakkaのあとにnut(?)と聞こえるが、トシさんによると
不要とのこと。春先の出来事であることがわかる。

33; kotanもkotanuも共に「村」であるが、「私の村」と言う
ときにはkotanuと形が変わる。前者を概念形、後者を所
属形という。a=に(私の)と逐語訳がついていれば、続
く名詞はすべて所属形である。

34; 動詞を重ねて「さんざん~する」の意をつくる合成語も
ある。

- [16]-1
6.38 **ピリカ ポンチセ ヘネ ネノ カネ アン トシリ,** 手頃な小屋のような川岸の洞穴,
pirka poncise hene neno kane an tosir,³⁵
よい 小さい家 でも かのうな 川岸の洞穴
- 2 **ピリカ トシリ アン アクス,** きれいな洞穴があるので,
pirka tosir an akusu,
きれいな 川岸の洞穴 ある すると
- 3 **「テタ ネブ カ アエキマテク ヘネ キ ヤクン** 「ここで何か恐ろしいことでもあれば
“teta nep ka a=ekimatek hene ki yakun
ここで 何 か (私)で驚く でも する ならば
- 4 **タン トシリ オツ タ ヌイナカン ヤッカ** この川岸の洞穴に隠れたら
tan tosir or ta nuynak=an yakka
この 川岸の洞穴 の所 に 隠れる(私) であっても
- 5 **ピリカ ルウェ」セコロ ハウエアン コロ コンド** いいよ」と言いつつ,
pirka ruwe” sekor hawean kor konto³⁶
いい よ と 言う しつつ こんど
- 6 **「テタ アシケ カ オピッタ** 「ここに荷物も全部
“teta a=sike ka opitta
ここに (私の)荷物 も 皆
- 7 **アヌイナ ワ パイエアン ロ」セコロ** 隠していこう」と
a=nuyna wa paye=an ro” sekor
(私)隠す して 行く(私達) しよう と
- 8 **ハウエアン ワ, セ ワ オカイ ペ オピッタ** 夫は言って、背負っているもの全部
hawean wa, se wa okay pe opitta
言う して 背負う して いる もの 皆
- 9 **ネ トシッ チョロポク オッタ アヌイナ ヒネ** その川岸の洞穴の下に隠し,
ne tosir corpok or ta a=nuyna hine
その 川岸の洞穴 の下 の所 に (私)隠す して
- 10 **オラ アテケ アニ ヒネ** 私の手を取って,
ora a=teke ani hine
そして (私の)手 持つ して
- 11 **ペッカスアン ヒネ パイエアン ルウェ ネ。** 歩いて川を渡っていった。
petkasu=an hine paye=an ruwe ne.³⁷
川を歩いて渡る(私) して 行く(私達) こと である
- [17]-1
7.13 **アクス, ホスキ アラバ ヒネ** すると,(夫が)先に行って,
akusu, hoski arpa hine
すると 先に 行く して
- 2 **コタン ノシキ ウン クル オナハ ネ** むらあさ 村長が父だ
kotan noski un kur³⁸ onaha ne
村 真ん中 にいる 人 父 である
- 3 **ヤク イェ プ ネ クス ナニ エウン アフン。** と言うので、すぐその家に入った。
yak ye p ne kusu nani eun ahun.³⁹
と 言う もの である ので すぐ そこへ 入る

35; 川岸が川の流れて丸くえぐられて、がけ下のようになっている所。

36; 日本語の「こんど」と同じで、話の合間に入る言葉。

37; 身重の女が石狩川を越えることは難しいが、トシさんによると、tosirに荷物を全部置いて身軽になったので、越えることができたのだ、とのこと。

38; kotan-noski-un-kur「村・真ん中・にいる・人」=村長。

39; ahunは単数形(一人が入る), ahupが複数形(二人以上

が入る)なので、家に入ったのは夫ひとりであることが言葉の形からもわかる。

アイヌの作法では、まず咳払いや物音で来たことを家の者に気づかせ、出てきた取り次ぎの者に来意を告げから入るのが習わしで、夫婦者の場合は妻は夫について入る。いきなり夫一人で入って行くというのは唐突な印象を受けるが、事件を予感して、妻が巻き込まれないようにそうしたのだろうか。

- 4 イシレン カ ソモ キ ノ ナニ アフン。 私に入れとも言わずすぐひとりで入った。
i=siren ka somo ki no nani ahun.
(私に)行こうと誘う も しない する して すぐ 入る
- 5 オラ ソイ タ (私は) 外で
ora soy ta
そして 外 に
- 6 ニス カ タ アシケヘ アアヌ ヒネ 白の上に荷物を置いて
nisu⁴⁰ ka ta a=sikehe a=anu hine
白 の上 に (私の)荷物 (私)置く して
- 7 シニアン ヒネ アナン ルウェ ネ アクス, 休んでいたところ,
sini=an hine an=an ruwe ne akusu,
休む(私) して いる(私) こと である したところ
- 8 オロ タ ビリカ オケレ ポンメノコ そこにとてもきれいな娘が
oro ta pirka okere ponmenoko
その場所に きれい 非常に~である 若い娘
- 9 ソイネ ヒネ, エアラキンネ 出てきて, ひどく
soyne hine, earkinne
外に出る して とても
- 10 イエランポキウエン ハウコカリ, イケムヌ ワ, 「可哀想に」「気の毒に」と何度も言っ
i=erampokiwen hawkokari,⁴¹ i=kemnu wa, 同情し,
(私を)哀れむ 繰り返し言う (私を)気の毒に思う して
- [18]-1 「アユビヒ ヒナク ワ カ 「お兄さんがどこからか
7-43 “ a=yupihi hinak wa ka
(私の)兄 どこ から も
- 2 エネ ビリカ メノコ ウタラ こんなにきれいな女の人達を
ene pirka menoko utar
このように きれいな 女 達
- 3 エトウン ワ アキバ ヒケ カ, 嫁にもらってくるけれど,
etun wa arkiba hike ka,
嫁に貰う して 来る しても
- 4 マク ネ ワ ネ ヤ イサム ランケ アイネ, なぜか皆いなくなってしまう, とうとう
mak ne wa ne ya isam ranke ayne,
どう である して である か いなくなる 何度もする したあげく
- 5 タネ ヤイケシテ ワ ネウン カ アラパ ワ 今では(兄は)家出してどこかに行って
tane yaykeste wa neun ka arpa wa
今や 家出する して どこかへ か 行く して
- 6 ホシピ ソモ キ クナク 帰ってこない
hosipi somo ki kunak
戻る しない する と
- 7 アラム コロ オカアナ フ, 思っていたが,
a=ramu kor oka=an a p,
(私)思う しつつ いる(私達) だったが

40; 通常, 白はセム(チセの西側についている物置小屋兼玄関)の中に置くものなのだが, 文脈からは以下の会話がセムの中で行われたのかどうか, 定かではない。いずれにしても, 夫に取り残されて, 入るタイミングを逸してしまったのである。

41; haw-ko-kari「声・と共に…を回す」=何度も繰り返し言う。本書に3回出てくる動詞だが, いずれも直前に動詞がくる変則的な形(ここでは後にも来る)。『アイヌ語

音声資料』(1991. 早稲田大学語学研究所)の用例も, 自動詞ではあるが動詞がすぐ前にきている。文脈からみて, どの組合わせも「~の言葉を何度も言う」と解釈できるので, 語頭のhawが前の動詞を名詞化する働きをもつのだらうか?

- 8 **エネ スイ ピリカ メノコ トウラ カネ ワ** こんなにまたきれいな女の人と一緒に，
ene suy pirka menoko tura kane wa
このように また きれいな 女 連れる して して
- 9 **オラ ヤッカ ヤイコソソ カネ アン** しかもお腹の大きい
ora yakka yaykososo⁴² kane an
そして それでも お腹の大きい して いる
- 10 **ボンメノコ トウラ ワ エク ルウェ アン**」 娘さんと一緒に来たのだね」
ponmenoko tura wa ek ruwe an⁴³
若い娘 連れる して 来る こと ある
- 11 **セコロ ハウエアン コロ** と言って，
sekor hawean kor
と 言う しつつ
- [19]-1 **イクムヌ ハウコカリ コロ** 「気の毒に」と何度も言いながら，
8:10 i=kemnu hawkokari kor
(私を)気の毒に思う 何度も言う しつつ
- 2 **アテケ アニ ヒネ アフナン ルウェ ネ。アクス**，私の手をとって家の中に入って行くと，
a=teke ani hine ahun=an⁴³ ruwe ne. akusu,
(私の)手 持つ して 入る(私) こと である したところ
- 3 **ネ チセ オンナイ タ** その家の中では
ne cise onnay ta
その 家 の中 に
- 4 **サケ ク エトコ オイキバ コロ** 酒宴の準備をして
sake ku etoko oykipa kor
酒 飲む の準備をする しつつ
- 5 **オカ…… アアン ヒネ**， いるところだったようで，
oka…… aan hine,
いる だったのだから して
- 6 **アフナン ワ インカラアン ワ**， 私が入って見てみると，
ahun=an wa inkar=an wa,
入る(私) して 見る(私) して
- 7 **オンネ クル カ アン ルプネマツ カ アン**， 老人がいて老女がいて，
onne kur ka an rupnemat ka an,
年とった 男 も いる 老女 も いる
- 8 **イユパネ クル ネ ノイネ オカ ウタラ カ** 兄らしき人達も
iyupne kur⁴⁴ ne noyne oka utara ka
兄である 人 である するような 人達 も
- 9 **トゥン オカ**， 二人いて，
tun oka,
二人 いる
- 10 **コタン コロ ウタラ カ オカ ヒネ オラ**， 村人達もいて，そして
kotan kor utara ka oka hine ora,
村 の 人達 も いる して そして

42; yaykososの形で「妊娠で腹が大きくなる」(萱野辞典)
43; その家の若者が客の手を引いて家に案内するのは作法どおりだが、女性に対してはしないと書いたものもある。

後日トシさんに確認したところでは、この後に isikereypare=an「下目使いに目を這わすようにする(よその家に入ってジロジロ見回すのは無礼なので、遠慮しながらそっと見る様子を表す)」と言うつもりだったとのこと。

44; 「イユクネ」と聞こえるが、pが曖昧に発音されたもので、i-yup-ne「人の兄である」が本意。他にもpがkに近く発音されている箇所がいくつかある。

i-[親族名称]-neの形はこの物語中に頻出するが、(親子関係で)「息子の方」-「父の方」、(兄弟関係で)「兄の方」-「弟の方」といった意味あいを持つ。

- 11 **アコン ニシパ アペエトク タ ア.....ヒ,** 夫は横座に座っていた。
a=kor nispa apeetok⁴⁵ ta a hi,
(私)の 旦那 横座 に 座る こと
- [20]-1 「**ホクレ ホクレ アボホ, シニ ヤク ピリカ,**」 「早く早く息子よ, 休んだらいい,
8:44 "hokure hokure a=poho, sini yak pirka,
早く 早く (私の)息子 休む と いい
- 2 **タヌクラン サケ アク エトコ アオイキ コロ** 今夜は酒宴の支度をして
tanukuran sake a=ku etoko a=oyki⁴⁶ kor
今夜 酒 (私)飲む (私)準備する して
- 3 **オカアナ フ,** いたが,
oka=an a p,
いる(私達) だったが
- 4 **ピリカ ヒネ アボホ エク ルウェ** よくぞ帰って来たなあ」
pirka hine a=poho ek ruwe”
よくぞ (私の)息子 来た だなあ
- 5 **セコロ ネ イオナネ クル ハウエアン コロ,** と, その父である人が言って,
sekor ne ionane kur hawean kor,
と その 父である 人 言う しつつ
- 6 **エヤイコブンテック ペコロ ハウエアン コロ** 喜んだかのように言って
eyaykopuntek pekor⁴⁷ hawean kor
喜ぶ かのよう 言う しつつ
- 7 **サケ クレ, アコン ニシパ サケ クレ コロ** 酒を飲ませ, 夫に酒を飲ませて
sake kure, a=kor nispa sake kure kor
酒 飲ませる (私)の 旦那さん 酒 飲ませる しつつ
- 8 **アラババ コロ オカ。** 何度も酒を注ぎに行った。
arpapa⁴⁸ kor oka.
行く しつつ いる
- [21]-1 **アフナニ カ ヤイエパタライエアン ペ ネ クス,** (私は)家に入るのもはばかられるので,
9:09 ahun=an hi ka yayepataraye=an pe ne kusu,
入る(私) こと も はばかり(私) もの なので
- 2 **アババ ポック タ トンチカムニ カ タ** 戸口の下の敷居の上に
apapa pok ta toncikamni ka ta⁴⁹
戸口 の下 に 敷居 の上 に
- 3 **アアン ヒネ インカラアン ヒネ アナン** 座って見ていた
a=an hine inkar=an hine an=an
(私)座る して 見る(私) して いる(私)

45; 炉の東側の座で, 賓客の席。家出した息子の久々の帰郷に, 下へも置かぬ歓迎ぶりかと思えたのだが.....。

46; etok(o) oyki「その先に・ものごとをする」「~の用意をする」。この二語でひとつの動詞のように機能するが, 人称接辞はどちらにもつくことができ, それによって意味が変わる。etok(o)は位置名詞なので「誰の」にあたる人称接辞がついて誰の準備をしたかを表し, oykiには「誰が」準備したかを示す人称がつく。この場合は, etokには人称がついていないが, 「私(達)が酒を飲む準備を」「私(達)がした」の意。

「自分の準備を自分がした」のであれば, yayetokoyki「身支度する」([42]-8参照)となる。

47; 本当に喜んでいたらのなら pekorは入らないのだが.....。

48; 注22参照。単複の区別がある動詞で, その単数形に-paがついている。-paは「何人もで/何回も~する」という意をつくるが, 単数形についた場合は「何回も」。

49; この女がいったいどこに座ったのか, 解釈が難しい。apapaは「出入口の所」と訳され, 田村辞典の図「ciseチセ 家」(xxiv頁)ではセムと戸外の出入口がapa, そのすぐ戸外にapapaがある。toncikamniは, toncikamani, cikamani等の形で「敷居」と文献にはあり(パチエラーは「戸の直ぐ外」と!), 管見する限り位置を明示したものはないが, 戸外に敷居があるとは考えずらい。

そこでトシさんに何うと「外とか内とかいうことでない, 入口のどこだ, 更に「apekes-utur taだ」とも。文脈も含めて考えると, 母屋の入口から木尻座(炉の入口寄り)の間の土間で上がりあぐねて, 結局上がらずに母屋の入口(の敷居)に座ったらしい。(鷹部屋福平の図では, セムと戸外ではなく, 母屋とセムの出入口に「apa」とある)

- 4 ルウェ ネ アクス, ところ,
ruwe ne akusu,
こと である したところ
- 5 アコン ニシバ イヨシキ ノイネ イキ シリ 夫は酔ったらしく,
a=kor nispa iyoski noyne iki siri
(私)の 旦那 酔う らしく する 様子
- 6 アエシンパイ コロ アヌカラ コロ アナン。 私は心配になって見ていた。
a=esinpay⁵⁰ kor a=nukar kor an=an.
(私)を心配する しつつ (私)見る しつつ いる(私)
- 7 ラボッケ, ヤイホクシテ テク シリ イキ アクス, そのうち急に倒れたかと思うと,
rapokke yayhokuste⁵¹ tek siri iki akusu,
そのうち 倒れる 急に~する 様子 する したところ
- 8 ネ オンネ クル エネ ハウエアニ。 その老人はこう言った。
ne onne kur ene hawean hi.
その 年とった 男 次のように言った
- [23]-1 「アボホ イネ, ヘンパク パ カ ホシピ カ 「息子はどうしたことが、何年も戻りも
9:36 “a=poho ine, henpak pa ka hosipi ka
(私の)息子 どうした 何 年 も 戻る も
- 2 ソモ キ アイネ, エク ワ しないで、ようやく戻って、
somo ki ayne, ek wa
しない する したあげく 来る して
- 3 シンキ カ キ ヒネ エク ワ 疲れて帰って、
sinki ka ki hine ek wa
疲れる も する して 来る して
- 4 イヨシキ ワ ホッケ シリ ネ ナ。 酔っ払って寝たようだ。
iyoski wa hotke siri ne na⁵²
酔う して 寝る 様子 である よ
- 5 ネノ アヌ ヤク ピリカ」 そのままにしておいたらいい」
nenno anu yak pirka”
そのように 置く したら いい
- 6 セコロ ハウエアアン ペ ネ クス と言うので、
sekor hawean pe ne kusu
と 言う もの である ので
- 7 ネノ ホッケ ヒ ネノ アン アイネ, (夫は)そのまま横たわっていたが、
nenno hotke hi nenno an ayne,
そのように 寝る したままでいる したあげく やがて
- 8 アクス オラ スイ エネ ハウエアニ。 (老人は)またこのように言った。
akusu ora suy ene hawean hi.
すると そして また 次のように言った
- [23]-1 「アボホ ウニ ウン ルラバ ヤク ピリカ ナ」 「皆で息子を家に運びなさい」
10:01 “a=poho uni un rurapa yak pirka na”
(私の)息子 家 に 運ぶ したら いい よ
- 2 セコロ ハウエアアン オンネ クル キ アクス, と老人が言ったところ、
sekor hawean onne kur ki akusu,
と 言う 年とった 男 する したところ

50 ; a=e-sinpay 「私が・について・心配する」。sinpayは日本語「心配」からきた言葉。

51 ; yay-hokus-te 「自分を・倒れる・させる」=倒れる

52 ; トシさんによると、この行の前に sake ku ka eramiskari wakusu 「酒を飲んだこともないので」が入るはずだったとのこと。

- 3 **ネ イボネ クル ウタラ エシタツカコモバ ヒネ** その息子達が夫を肩に担いで
 ne ipone kur utar esitapkakomopa⁵³ hine
 その 息子である 人 達 肩の上で折り曲げる して
- 4 **ニンパンニパパ コロ ソイエンバ ヒ クス** 皆で引きずって外に出たので、
 ninpaninpapa kor soyenpa hi kusu
 するずる引きずる しつつ 外に出る ので
- 5 **ナニ オシ ソイネアン ルウェ ネ アクス、** すぐに私も後から外に出た。すると、
 nani os soyne=an ruwe ne akusu,
 すぐ の後から 外に出る(私) こと である したところ
- 6 **チセ ハラキソ ワ ウニヒ ネ ヤク** 家の南側が(夫の)家だと
 cise harkiso wa⁵⁴ unihi⁵⁵ ne yak
 家 左座 から 家 である と
- 7 **イエ ヲ ネ アクス、ナニ ネ ウニ ウン** 言うので、(義兄達が)すぐにその家に
 ye p ne akusu, nani ne uni un
 言う ものである したところ すぐ その 家 に
- 8 **ルラバ ヒネ ネ オシ アラパアン ルウェ ネ。** 運んで私もその後について行った。
 rurapa hine ne os arpa=an ruwe ne.
 運ぶ して その 後 行く(私) こと である
- [24]-1 **アクス、ネ ルラ ウタラ** すると、その運んだ人達と
 10.30 akusu, ne rura utar
 したところ その 運ぶ 人達
- 2 **アババ ポク タ イエトウナンカラ ノ** 出入口で行きあって、
 apapa pok ta i=etunankar no
 戸口 の下 で (人に)行きあう して
- 3 **ソイエンバ ナニ アフナン ルウェ ネ アクス、** 皆が外に出るのと入れ違いに私が入ると、
 soyenpa nani ahun=an⁵⁶ ruwe ne akusu,
 外に出る すぐ 入る(私) こと である したところ
- 4 **ネ アコン ニシバ ホッケ ワ アン ヒ クス** 夫が寝ているので、
 ne a=kor nispa hotke wa an hi kusu
 その (私)の 旦那 寝る して いる ので
- 5 **「アコン ニシバ」セコロ ハウエアナン コロ** 「旦那さま」と言って
 “ a=kor nispa ” sekor hawean=an kor
 (私)の 旦那 と 言う(私) しつつ
- 6 **サマ タ アラパアン ルウェ ネ アクス、** そばに行くと、
 sama ta arpa=an ruwe ne akusu,
 そば に 行く(私) こと である したところ
- 7 **ヒナク ワ ヤウテク ワ アン ペ ネ クス、** どういうわけが冷たくなっているの
 hinak wa yawtek wa an pe ne kusu,
 どういうわけか 冷たくなる して いる ものである ので

53 ; e-si-tapka-kom(o)-pa 「～を肩の前後にたらしめて(振り分けにして)かつぐ」と田村辞典にはあり、語の形(～を・自分の・肩の上・曲げる・複数)からもそのように思われるが、トシさんによると二人で両肩を支えることだといい、次行にはninpaninpapa「(二人以上で)するずると引きずる」とあるので、「肩の上に担いで皆で引きずる」では意味が通じない。話者の意図としては、「息子たち2人で夫の両脇を抱えてするずる引きずっていった」のであろう。

54 ; 家内部の位置関係を延長して外の方角を示す言い方。沙流地方では、左座は炉の南側に当たるので、ここでは「家の南側」の意。

55 ; cise, unihiと違った2つのアイヌ語に「家」とあるが、ciseは一般的に建物としての家で、特定の「(だれそれ)の家」という場合にはuni(hi)を使う。ここでは人称がついていないので、(私でもあなたでもない)「彼の家」、すなわち夫の家。

56 ; soyenpaとahunの人称接辞に注目。ahunには=anがついていて、「私が入る」だとすぐわかるが、soyenpaには人称接辞がなく、しかも複数形である(単数形はsoyne)。人称接辞がつかないのは三人称なので、soyenpaの人称は、三人称複数つまり「彼らが」であることがわかる。「私が入りした」ではない。

- 8 「アコン ニシパ, アコン ニシパ」
 “ a=kor nispa, a=kor nispa ”
 (私)の 旦那 (私)の 旦那 「旦那さま, 旦那さま」
- 9 セコロ ハウェアナン コロ
 sekor hawean=an kor
 と 言う(私) しつつ と言って
- 10 ライパラパラクアン ルウェ ネ アクス,
 rayparaparak=an ruwe ne akusu,
 わあわあと泣く(私) こと である したところ 私にはわあわあ泣いた。すると,
- [25]-1 25 10:55 ソウスツ タ ピリカ オケレ ポンメノコ
 sowsut ta pirka okere ponmenoko
 壁際 に きれいな とても~である 若い娘 壁際にきれいな娘が
- 2 アシ ヒネ アン ヒネ,
 as hine an hine,
 立つ して いる して 立っていて,
- 3 「カッケマツ, イテキ チシ ノ ホクレ キラ,
 “ katkemat, iteki cis⁵⁷ no hokure kira,
 奥さん するな 泣く して 早く 逃げる 「奥さん, 泣いてないで早く逃げなさい。
- 4 エアニ カ エアン ヤクン アエライケ
 eani⁵⁸ ka e=an yakun a=e=rayke⁵⁹
 あなた も (お前)いる ならば (人がお前を)殺す あなたもここにいたら殺されて
- 5 ナンコン ナ. イテキ チシ ノ ホクレ,
 nankor na. iteki cis no hokure,
 だろう よ するな 泣く して 早く しまうでしょう。泣いてないでさあ早く,
- 6 テ タ オカ イオナネ クル ウタヲ パクノ
 te ta oka ionane kur utar pakno
 ここ に いる 父である 人 達 ほど ここにいる父達ほど
- 7 ウエイ サンペ コロパ イサム ペ ネ ヒケ,
 wen sampe korpa isam pe ne hike,
 悪い 心 持つ いない 物 である して 悪い心を持ったものはいない,
- 8 マク ネ ワ ネ イヨッタ イアクネ クル
 mak ne wa ne iyotta iakne kur
 どういうわけか 一番 弟である 人 どういうわけか一番下の息子
- 9 ネ ヒケ シレトク トウラ パエトク トウラ
 ne hike siretok tura paetok tura
 である して 美貌 と共に 雄弁 と共に は容姿もよく雄弁で,
- 10 イソン トウラ, ネフ ネ ヤッカ エペセ アイヌ
 ison tura, nep ne yakka epese⁶⁰ aynu
 狩がうまい と共に 何 であっても 器量がいい 人間 狩も上手で, 何をしても欠点がない
- 11 イサムノ ペ ネ ヒ クス, ケシケバ ワ
 isamno pe ne hi kusu, keskepa wa
 全くない 物 である ので ねたむ して ない人なので, ねたんで

57; iteki cis「するな 泣く」 泣くな。注23参照

58; アイヌ語にも, 日本語と同じように独立して「私」「あなた」などを示す, いわゆる人称代名詞もある。これもそのひとつで, 「誰」というのを特に強調したい場合にだけ使う。

59; 人称接辞は何も一つしかつかないとは限らない。他動詞は人称接辞を2つとることができる。「~が/は」「~に/を」の順に並ぶ。

60; トシさんはこれ以外に「epesekur」という言い方もあり, それは「器量がよく, 欠点のない人」であると後日説明してくれた。siretok「容姿がよい」, paetok「雄弁である」, ison「狩りがうまい」, rametok「勇気がある」などは, いずれも男の器量を言う言葉である。

- 12 **オラノ ウェンカムイ コノンノイタツパ ヤッカ** 悪い神に祈ったけれど，
 orano wenkamuy kononnoiyakpa⁶¹ yakka
 そして 悪い神 に祈る であっても
- 13 **セレマク ユツケ ヲ ネ クス** 憑神が強いので
 sermak yupke p ne kusu⁶²
 憑神 強い もの である ので
- 14 **エベッチウ カ ソモ キ ヲ ネ クス，** 障りもないものだから，
 epetciw ka somo ki p ne kusu，
 が障害になる も しない する もの である ので
- [26]-1 **コンド マテトゥン(コロ)ワ コロ** こんど妻をもらったので，
 11:42 konto mat etun kor wa kor
 今度 女 を妻にする して すると
- 2 **エキムネ ワ イサム コロ イライケバ ワ** (夫が) 獵に行った留守に私を殺して，
 ekimne wa isam kor i=raykepa wa
 山へ行く して いない すると (私を) 殺す して
- 3 **チセ スツ タ トイ トウム イオマレパレ ワ** 家の下の土に埋められて
 cise sut ta toy tum i=omarepare wa
 家 下の方 に 土 の中に (私を) 入れる して
- 4 **オカアン ルウェ ネ クス，** いたのが私達であるので，
 oka=an ruwe ne kusu，
 いる(私達) こと である ので
- 5 **エアニ カ アエライケ ナンコン ナ。** あなたも殺されてしまうでしょう。
 eani ka a=e=rayke nankor na.
 あなた も (人が・お前を) 殺す だろう よ
- 6 **ホクレ キラ ワ ネン ボカ エイキ ワ** さあ早く逃げて，なんとかして
 hokure kira wa nen poka e=iki wa
 早く 逃げる して 何とかして (お前) する して
- 7 **エシクヌ ヤク オラ エヌワフ** 死なずにすんだら，あなたのお産は
 e=siknu yak ora e=nuwap
 (お前) 生きる なら そして (お前) お産
- 8 **エテクサム カ チエプンキネ クス ネ ナ。** 私達がそばで守ってあげましょう。
 e=teksam ka ci=epunkine⁶³ kusu ne na.
 (お前) のそば も (私達が) 守る するつもりである よ
- 9 **ヤイエイモンタサ クニ パテク ラム コロ** 敵を討つことだけを考えて
 yayeymontasa kuni patek ramu kor
 敵討ち するように ばかり 思う しつつ
- 10 **ホクレ キラ。 イテキ チシ ノ」** 早く逃げなさい。泣かないで」
 hokure kira. iteki cis no”
 早く 逃げる するな 泣く して
- 11 **セコロ ネ ポンメノコ ハウエアン コロ** と，その娘さんは言って，
 sekor ne ponmenoko hawean kor
 と その 若い娘 言う しつつ

61；「悪神に祈る」とは，呪いをかけること。ポニタクpon itak(小さい・言葉)とも言い，極秘に行われる。かけ損じると自分に返ってくると言われ，恐れられた。

62；このように憑き神が強い人は運も強く，また悪い呪文などはねかえすこともできると考えられた。

63；特殊な人称接辞だが，ciは「(相手を含まない)私達が」。六人いる先妻たちの亡霊のことを指している。後半の同じ箇所(40]-3)ではa=epunkineになっている。

- 12 **クリパン テク ヒネ** さっと消えてしまった。
 kuripan⁶⁴ tek hine
 姿が消える 急に-する して
- [27]-1 **オラ ナニ アコロ ポン シケ アウク テク ヒネ** 私は取るものも取りあえず、あわてて
 12:22 ora nani a=kor pon sike a=uk tek hine
 そして すぐ (私)の 少ない 荷物 (私)取る 急に-する して
- 2 **ソイネアン ヒネ** 外に出て、
 soyne=an hine
 外に出る(私) して
- 3 **ナニ ペツ オロ アオシマ アクス、** すぐ川に入った。すると
 nani pet or a=osma akusu,
 すぐ 川 の所 (私)入る したところ
- 4 **ソンノ カ ネフ アエラナク カ ソモ キ ノ** (娘から)聞いた通り、何の苦勞もなく
 sonno ka⁶⁵ nep a=eranak ka sono ki no
 聞いた通り 何 (私)で困っている も しな-い する して
- 5 **ペッカスアン ヒネ ヤナナクス** 川を越えて岸にあがると、
 petkasu=an hine yan=an akusu
 川を歩いて渡る(私) して 陸に上がる(私) と
- 6 **イオシ タトゥッペ コロ カネ ワ オカ ウタラ** 私の後からたいまつを持った人達、
 i=os⁶⁶ tatuspe kor kane wa oka utar
 (私)の後ろ たいまつ 持つ して して いる 人達
- 7 **インネ ウタラ イオシ イケサンパ ヒネ** 沢山の人達が私の後から追いかけてきて、
 inne utar i=os i=kesanpa hine
 大勢の 人達 (私の)後ろ (私を)追いかける して
- 8 **ペツ サム ペカ サッ ワ オラ エネ ハウオカイ、** 川のそばに来て、こう言った。
 pet sam peka sap wa ora ene hawoka hi,⁶⁷
 川 そば に おりる して そして こう 言った こと
- [28]-1 **「エネ アン ポロ ペトツ タ** 「こんなに大きな川で、
 12:47 " ene an poro pet or ta
 このように ある 大きな 川 の所 に
- 2 **エネ アン メノコ、ホンコロ カネ アン メノコ** あんな身重の女が
 ene an menoko, honkor kane an menoko
 このように ある 女 妊娠する して いる 女
- 3 **マク イキ ヒネ エネ アン ペトツタ** どうやってこんな川を
 mak iki hine ene an pet or ta
 どう する して このように ある 川 の所 に
- 4 **ヤン ペ アン。** 越えるというのだろう。
 yan pe an.⁶⁸
 あがる もの いる
- 5 **タネ モム ワ アトウイ オロ** 今頃は流されて海まで
 tane mom wa atuy or
 今では 流れる して 海 の所

64 ; kuri-pan 「影・うすくなる」。この女性はかつて主人公の旦那さんの奥さんだった人の一人で、幽霊としてこの場に現れて主人公に今回の事件について説明してくれたのである。

65 ; sonno ka は、慣用句として「やはり本当に」「聞いた通り」「思った通り」「予想した通り」。

66 ; 人称接辞 i= は、動詞につくと「私に/を」だが、「前」「後ろ」「上」「下」など位置名詞につくと「私の」の意。

67 ; hawoka hi < haweoka hi. hawean hi の複数形。

68 ; 反語表現。「どうやってこんな川を越える者がいるだろう。いや、いはしない」

- 6 **オシマ ワ イサム ナンコロ ワ。」** 行ってしまっただろうよ」
osma wa isam nankor wa. ”
入る して しまう だろう よ
- 7 **セコロ ハウエオカバ コロ** と口々に言って
sekor haweokapa kor
と 言う しつつ
- 8 **エウミナレバ コロ ホシッパ ワ アヌ コロ** 笑いあって戻っていくのを聞きながら、
euminarepa⁶⁹ kor hosippa wa a=nu kor
皆で笑う しつつ 戻る して (私)聞く しつつ
- 9 **オラ ネ トシッ チョルン アフナン ワ アナン** 私はその川岸の洞穴に入って
ora ne tosir cor un ahun=an wa an=an
そして その 川岸の洞穴 の下 に (私)入る して いる(私)
- 10 **ヌイナクアン ワ アナン ワ** 隠れて
nuynak=an wa an=an wa
隠れる(私) して いる(私) して
- 11 **オラノ チサン コロ アナン。** 泣いていた。
orano cis=an kor an=an.
そして 泣く(私) しつつ いる(私)
- 12 **ナ アコン ニッパ アケムヌ ワ** まだ夫が可哀想で
na a=kor nispa a=kemnu wa
まだ (私)の 旦那 (私)同情する して
- 13 **オラノ チサン コロ アナン。** 泣いていた。
orano cis=an kor an=an.
そして 泣く(私) しつつ いる(私)
- [29]-1 **エソイネ ソイネアン カ イシトマアン ペ ネ** 外に出るのも怖い
13:17 esoyne soyne=an ka isitoma=an pe ne
外に 外に出る(私) も 恐い(私) もの である
- 2 **クス ヌイナクアン ワ アナン ラポッケ、** ので隠れているうちに、
kusu nuynak=an wa an=an rapokke,
ので 隠れる(私) して いる(私) そのうちに
- 3 **ネ トシリ オツ タ ヌワフアン ルウェ ネ アクス、** その川岸の洞穴で産気づいて
ne tosir or ta nuwap=an ruwe ne akusu,
その 洞穴 の所 で 産気づく(私) こと である したところ
- 4 **ソンノ カ オッカヨ ポイソン アコロ ワ** (娘から)聞いた通り(何の障りもなく)
sonno ka okkayo poyson a=kor wa
聞いた通り 男 子 (私)持つ して 男の子をもうけて、
- 5 **ポヘネ オラ アエイコブンテク ネ ヤ** なおさら嬉しいやら、
pohene ora a=eyaykopuntek ne ya
なおさら そして (私)喜ぶ など
- 6 **アコン ニッパ アケムヌ アン チキ** 夫のことを思えば
a=kor nispa a=kemnu an ciki
(私)の 旦那 (私)気の毒に思う ? したら
- 7 **マカナク エエイコブンテク アン ペ アン?** どうして喜べるだろう
makanak eyaykopuntek an pe an?
どうして を喜ぶ ? もの ですか

69 ; e-u-mina-re-pa 「～について・互いに・笑う・させる・(複数)」。euminare だけでも「皆で笑う」の意だが、さらにpa「二人以上で/何回も」がついている。

- 8 **セコロ ヤイヌアン コロ オラノ ポヘネ** と思つて、なおさら
 sekor yaynu=an kor orano pohene
 と 思う(私) して そして なおさら
- 9 **チサナ アナ コロ パテク アナン アイネ、** 泣いてばかりいたが、やがて
 cis=an a an a⁷⁰ kor patek an=an ayne,
 泣きに泣く(私) して ばかり いる(私) したあげく
- 10 **タネ ネン ポカ イキアン ヒネ** 今はなんとかして
 tane nen poka iki=an hine
 今 何とかして する(私) して
- 11 **アウニ ウン シレパアン ルスイ** 家に帰りたい
 a=uni un sirepa=an rusuy
 (私の)家 に 着く(私) したい
- 12 **セコロ ヤイヌアン ワ オラ** と思つて、
 sekor yaynu=an wa ora
 と 思う(私) して そして
- 13 **ネ アコロ ポイソン アウナソロ オマレ カネ** その赤ん坊を懐に入れて
 ne a=kor poyson⁷¹ a=upsoro omare kane
 その (私)の 赤ん坊 (私の)懐 入れる したままで
- 14 **ヒネ オラノ ホシピアン。** 家に向かった。
 hine orano hosipi=an.
 して それから 帰る(私)
- [30]-1 **ソンノ カネ クス ネ、ネ アコン ニシバ** 本当に(夫の言った通りに),夫の
 13:57 sonno kane kusu ne, ne a=kor nispa
 本当に して します その (私)の 旦那
- 2 **ケウレ ア チクニ アオペシ ヒネ エカン、** 削った木に沿って行って、
 kewre a cikuni a=opes hine ek=an,
 削る した 木 (私)沿う して 来る(私)
- 3 **レウシ ウシ タ カ ネ ヤツ チセ オツ タ** 泊るときはずっと仮小屋に
 rewsi usi ta ka ne yar cise or ta
 泊る とき に も その 木の皮 家 の所 に
- 4 **レウシアン カネ ヒネ エカン ヒネ** 泊って行って、
 rewsi=an kane hine ek=an hine
 泊る(私) して して 来る(私) して
- 5 **アウニ タ シレパアン ルウェ ネ。** 私の家に着いたのだった。
 a=uni ta sirepa=an ruwe ne.
 (私の)家 に 着く(私) こと である
- 6 **ヒネ オラノ ポヘネ** それからなおさら
 hine orano pohene
 それから そして なおさら
- 7 **アコン ニシバ アケムヌ ワ チサン コロ アナン** 夫が可哀想で泣き暮らした。
 a=kor nispa a=kemnu wa cis=an kor an=an
 (私)の 旦那 (私)気の毒に思う して 泣く(私) しつつ いる(私)

70; cis=an a an aは、.....a.....aの構文で、「繰り返し繰り返し返し~する」の意。普通は動詞も繰り返されるが、人称接辞が=anの場合だけ、2回目の自動詞は省略される。

71; a=korのkorは、本来「持つ」という意味の動詞だが、この例のように「の」と訳した方がいい場合も多い。この場合のaは「私の」ではなく「私が」。a=kor sonはa=pohoと言い替えることができるが、その場合のaは「私の」である点に注意。

- 8 **アコロ ソン アエチヨクヌレ** 子供にくちづけをしつつ
a=kor son a=ecoknure
(私)の 息子 (私)くちづけをする
- 9 **オボソ チサン コロ パテク アナン アイネ,** 泣きながら暮らして、ようやく
oposo cis=an kor patek an=an ayne,
通して 泣く(私) して ばかり いる(私) したあげく
- [31]-1 **タネ アコロ ソン カ ポンノ ポロ ヒ** 今は息子も少し大きくなって、
14:27 tane a=kor son ka ponno poro hi
今 (私)の 息子 も 少し 大きくなる 時
- 2 **オラノ ポン アイ ポン ク, ク アカラ ワ** 小さい矢, 小さい弓を私が作って
orano pon ay pon ku⁷², ku a=kar wa
そして 小さい 矢 小さい 弓 弓 (私)作る して
- 3 **アエシノッテ コロ クシケライボ** それで遊ばせたおかげで、
a=esinotte kor kuskeraypo
(私)で遊ばせる したところ おかげで
- 4 **ミナアン カネ ワ アコロ ソン** 笑いながら息子を
mina=an kane wa a=kor son
笑う(私) して して (私)の 息子
- 5 **アオシックルコテ コロ アナン, オラ** 見守って暮らせるようになった。そして
a=osikkurkote⁷³ kor an=an, ora
(私)じっと見る しつつ いる(私) そして
- 6 **タネ ポンノ ポロ ヒ オラノ アナクネ** 少し大きくなってからは、
tane ponno poro hi orano anakne
今では 少し 大きくなる 時 それから は
- 7 **ウナ オロ ペカ ポン クアリ** 炉の灰の上に小さい仕掛け弓を(描いて)
una or peka⁷⁴ pon kuari
灰 の所 に 小さい 仕掛け弓
- 8 **アエパカシヌ ネ ヤ キ コロ アナン コロ,** 教えたりしていたところ、
a=epakasnu ne ya ki kor an=an kor,
(私)を教える など する しつつ いる(私) したところ
- 9 **ネ クアリ ポン クアリ カ** その小さい仕掛け弓も
ne kuari pon kuari⁷⁵ ka
その 仕掛け弓 小さい 仕掛け弓 も
- 10 **ヤイカタ カ カラ エアシカイ パクノ ネ ヒ** 自分で作ることができるほどになり、
yaykata ka kar easkay pakno ne hi
自分で も 作る できる ほど になる 時
- [32]-1 **オラノ タネ ポン ヘカチ ネ クス** 今はまだ小さいので
15:10 orano tane pon hekaci ne kusu
そして 今 小さい 子供 である ので
- 2 **アトゥラ ワ エキムネアン ワ** 私が一緒に山へ連れて行って
a=tura wa ekimne=an wa
(私)一緒に行く して 山に行く(私) して

72; アイヌの男の子の遊びの代表的なもの。このような遊びを通じて狩りの練習をし、一人前の男になる。

73; o-sik-kur-kote 「(そこ)に・目・影/姿・結びつける」

74; 炉の灰の上に絵を描いて説明している。子供がまだ小さいために、男の仕事を手で実際に教えることができず、亡夫が自分に教えてくれた通りに絵に描いて教えているという描写。夫が生前、女である妻に狩りを教えたことの意味が何であったか、伏線が現実となる場面。

75; kuari は、「仕掛け弓をしかける」という意味の自動詞だが、自動詞はそのままの形で名詞にもなる。この後でも、「仕掛け弓をしかけること」「仕掛け弓のしかけ方」など名詞として解釈すべき箇所もある。ただし、ここでは amappo 「仕掛け弓」とまったく同義に用いている。

- 3 **キム タ カ クアリ アエパカシヌ アクス,** 山で仕掛け弓を教えると,
kim ta ka kuari a=epakasnu akusu,
山 で も 仕掛け弓 (私)を教える したところ
- 4 **クアリ アクス, エウン カムイ カ ユク カ** (自分で)仕掛けて,そこへ熊でも鹿でも
kuari akusu, eun kamuy ka yuk ka
仕掛け弓をしかける すると そこへ 熊 も 鹿 も
- 5 **オシマ ヤク イェ コロ セ ワ イワク コロ** かかったと言って背負って帰ると,
osma yak ye kor se wa iwak kor
かかった と 言う しつつ 背負う して 帰る すると
- 6 **オラノ ポヘネ カシ タ チサン コロ** 私はなおさら泣いて,
orano pohene kasi ta cis=an kor
そして なおさら 上 に 泣く(私) しつつ
- 7 **アコン ニシバ アケムヌ ネ ヤ** 旦那さんがかわいそうやら
a=kor nispa a=kemnu ne ya
(私)の 旦那 (私)気の毒に思う など
- 8 **アコロ ソン アコブンテク ヒ ネ ヤ** 息子(の成長)が嬉しいやらで
a=kor son a=kopuntek hi ne ya
(私)の 息子 (私)喜ぶ こと など
- 9 **ネ チサン コロ パテク アナン アイネ,** 泣いてばかりいたのであるが,やがて
ne cis=an kor patek an=an ayne,
その 泣く(私) しつつ ばかり いる(私) したあげく
- 10 **タネ アコロ ソン ポロ ワ** 今は息子も大きくなって
tane a=kor son poro⁷⁶ wa
今 (私)の 息子 大きくなる して
- 11 **ボン オッカイボ ネ パクノ アン アクス,** 青年にまでなったので,
pon okkaypo ne pakno an akusu,
小さい 青年 になる ほど ある したところ
- 12 **オラ ネ イボネ オッカイボ イソイタク。** (以後は)その息子である青年が物語る。
ora ne ipone okkaypo isoytak.⁷⁷
そして その 息子である 青年 物語る
- [33]-1 **マク ネ ワ ネ ヤ,** どういうわけか,
15.53 mak ne wa ne ya,
どう である して である か
- 2 **アウヌ トウラノ アナン ワ** 母と暮らしていて,
a=unu turano an=an wa
(私)の母 と一緒に 暮らす(私) して
- 3 **オラ オナ カ サク ノ アナン ヒケ オラノ** 父はなく暮らしていて,
ora ona ka sak no an=an hike orano
そして 父 も なしに いる(私) して そして

76; アイヌ語では、日本語でいう「形容詞」つまりpirka「美しい」poro「大きい」等は、そのままの形で「美しくなる」「大きくなる」等の意味をもち、自動詞として扱われる。

「成長する」の意では他に後出のsukupがあるが、poroは文字どおり「大きくなる」ことで、体格的な成長が止まる年代までしか使えないのに対し、sukupは年齢に関係なく用いられる。

77; このように叙述者が変わるというのは、ウエベケレでは珍しくない。

- 4 **アウヌ チシ コロ パテク アン。**
a=unu cis kor patek an.
(私の)母 泣く しつつ ばかり いる
母は泣いてばかりいた。
- 5 **ネブ カラ ヤッカ チシ, ネブ カ アカラ コロ**
nep kar yakka cis, nep ka a=kar kor
何 する であっても 泣く 何 も (私)する しつつ
何をするのにも泣いて、私が何かをして
- 6 **ボンノ ボンノ ミナ カネ コロカ**
ponno ponno mina kane korka
少し 少し 笑う して けれど
ほんの少し笑っても
- 7 **チシ コロ パテク アン ヒ クス,**
cis kor patek an hi kusu,
泣く しつつ ばかり いる なので
すぐに泣いてばかりいるので、
- 8 **シネアンタ アコウエペケンヌ。**
sineanta a=kouepekennu.
あるとき (私)事情を尋ねる
ある日わけを尋ねた。
- [34]-1 「**アウヌフ, マク ネ ヒネ**
16:16 “ a=unuhu, mak ne hine
(私の)母 どう である して
「お母さん、どうして
- 2 **エネ オナ カ サク ノ ヘトゥクアン ペ**
ene ona ka sak no hetuk=an pe
このように 父 も なしに 生まれる(私) もの
僕はこんなふうにお父さんがいない
- 3 **アネ ルウェ ネ ヤ?**
a=ne ruwe ne ya?
(私)である こと である か
の?
- 4 **アウヌ タクッ トウラノ アナン,**
a=unu takup turano an=an,
(私の)母 ばかり 一緒に 暮らす(私)
お母さんだけいて、
- 5 **アオナ サク ペ アネ ルウェ ネ ヤ?」**
a=ona sak pe a=ne ruwe ne ya?“
(私の)父 ない もの (私)である こと である か
お父さんのいない僕なの?」
- 6 **セコロ アコウエペケンヌ アクス,**
sekor a=kouepekennu akusu,
と (私)尋ねる したところ
と訊くと、
- 7 **アウヌフ チサ チサ コロ アン アイネ,**
a=unuhu cis a cis a⁷⁸ kor an ayne,
(私の)母 泣きに泣く しつつ いる したあげく
母はさんざん泣いて泣いて、やがて
- 8 **エネ ハウエアニ。**
ene hawean hi.
次のように言った
こう言った。
- [35]-1 「**タネ パクノ エポロ ワ ネ ヤクン**
16:39 “ tane pakno e=poro wa ne yakun
今 まで (お前)大きくなる して である ならば
「こうまで大きくなったなら、
- 2 **アエコウパシクマ ヤクン エエラムアン**
a=e=koupaskuma yakun e=eramuan
(私が・お前に)事情を話す ならば (お前)わかる
わけを話してもわかる

78 ; 再び..... aaの構文。[29]-9ではcis=an a an aと二回目のcisが省略されていたが、叙述者が交替し、主語は三人称(叙述者の母)で語られているため、=anがついていない。

従ってcisは省略できない。

- 3 ナンコン ナ」セコロ ハウエアン コロ, だろうね」と言って,
nankor na” sekor hawean kor,
だろう ね と 言う しつつ
- 4 「タツネ カネ (オハシン ネ) ボナニ タ 「実は、私は子供の頃,
“ tapne kane 79 (ohasir ne) pon=an hi ta
実は 小さい(私) 時 に
- 5 アナクネ オハシツ タ トウムン トウム タ 誰もいないほこりだらけの家で
anakne ohasir ta tumun tum ta
は 誰もいない家 で ほこり の中 で
- 6 ヤイエシカルンカ ヲ アネ ヒネ, ものごころついたもので,
yayesikarunka p a=ne hine,
気がつく もの (私)である して
- 7 オナ カ ウヌ カ サク ノ アナン ベ 父も母もいないで暮らしていたのが
ona ka unu ka sak no an=an pe
父 も 母 も なしに いる(私) もの
- 8 アネ ワ, チセ オンナイ ネ ヤ 私で、家の中や
a=ne wa, cise onnay ne ya
(私)である して 家 の中 など
- 9 チセ ソイ ネ ヤ アチャッヌレ コロ アナン, 外を掃除して暮らしていた。
cise soy ne ya a=casnure kor an=an,
家 の外 など (私)掃除する しつつ いる(私)
- [36] -1 ラボツケ エソイネ フマシ クス そのうち外で音がするので
17:09 rapokke esoyne humas kusu
そのうち 外で 音がする ので
- 2 ソイネアン ヒネ インカラアン アクス, 出てみると,
soyne=an hine inkar=an akusu,
外に出る(私) して 見る(私) したところ
- 3 アイヌ ヌカラ カ アエラミシカリ, 人間を見たこともない(けれど),
aynu nukar ka a=eramiskari,
人間 見る も (私)したことがない
- 4 オッカヨ セコロ アイェ ヲ ネ クニ 男の人と言われるものだと
okkayo sekor a=ye p ne kuni
男 と (人)言う もの である すべき
- 5 アラム ヲ ソイ タ アン ヒネ, 思う人が外にいて,
a=ramu p soy ta an hine,
(私)思う もの 外 に いる して
- 6 イワン チョクサミツ ミ カネ ヒネ アン ヒクス 六重の喪服を着ていて,
iwan cokusamip mi kane hine an hi kusu
六 喪服 着る ままで して いる だから
- 7 アアフンケ クス アイェ ヒネ アフン ヒネ, 入るように言うと入ってきて,
a=ahunke kusu a=ye 80 hine ahun hine,
(私)入れる ために (私)言う して 入る して

79 ; ここから[40]-8までは、母親の語りの引用で、前半部のダイジェスト。叙述者が変わっても、元々ウエベケレ中の「私」は不特定な「人が」語ったもので、引用文と同じ人称で語られる。従って人称接辞は変化していない。

80 ; a=ahunke kusu a=yeと[36]-9のi=supare kusu yeは、全く同じ構文。動詞の語尾の-ke, -reが「～させる」の意であることは注15で触れたが、この[使役語尾]にkusu yeが続くと、「～させる」の意味はなくなり「～するように言う」と訳す。

- 8 **アエフ セ ワ エク ヒネ** 食べ物を背負ってきていて、
 aep se wa ek hine
 食べ物 背負う して 来る して
- 9 **イスパレ クス イェ ヒネ** 私に料理するように言って、
 i=supare kusu ye⁸⁰ hine
 (私に)料理させる ために 言う して
- 10 **アスパ ワ アエレ ネ ヤ** 料理して食べさせたり
 a=supa wa a=ere ne ya
 (私)料理する して (私)食べさせる など
- 11 **ヤイカタ カ イエレ ワ イペアン コロ アン。** 自分でも食べたりした。
 yaykata ka i=ere wa ipe=an⁸¹ kor an.
 自分 も(私に)食べさす して 食べる(私) しつつ いる
- [37]-1 **ニサッタ ネ,** 翌日になって、
 17:38 nisatta ne,
 明日 になる
- 2 **ネウン カ アラパ ヲ ネ クナク アラム アクス,** どこかに行くのだろうと思っていると、
 neun ka arpa p ne kunak a=ramu akusu,
 どこへ も 行く もの である だろうと (私)思う したところ
- 3 **ネウン カ アラパ カ ソモ キ ノ** どこにも行かないで
 neun ka arpa ka somo ki no
 どこへ も 行く も しらない する して
- 4 **オラノ トウラノ アナン ワ,** そのまま一緒に暮らしていた。
 orano turano an=an wa,
 そして 一緒に 暮らす(私) して
- 5 **ユプテツ クル ネ ヲ ネ ヒネ** (男は)働き者なので、
 yuptek kur ne p ne hine
 勤勉である 人 である もの である して
- 6 **ネフ アエ ルスイ カ** 何を食べたいとも
 nep a=e rusuy ka
 何 (私)食べる したい も
- 7 **アコン ルスイ カ ソモ キ ノ オカアン。** 欲しいとも思わないで暮らしていた。
 a=kor rusuy ka somo ki no oka=an.
 (私)持つ したい も ない する して いる(私)
- [38]-1 **ラボッケ, 『タプネ カネ** そのうち, 『実は
 17:54 rapokke, ' tapne kane
 そのうち 実は
- 2 **イシカツ タ アオナ カ アウヌ カ アン** 石狩に父も母もいて
 iskar ta a=ona ka a=unu ka an
 石狩 に (私の)父 も (私の)母 も いる
- 3 **アユプタリ カ アン ペ ネ ア ヲ,** 兄もいるので、
 a=yuputari ka an pe ne a p,
 (私の)兄達 も いる もの であつたが
- 4 **エウン アラパ ルスイ』** そこへ行きたい』
 eun arpa rusuy ' ,
 そこへ 行く したい

81 ; 逐語訳から考えてもわかるとおり、i=e-re「私に・食べる・させる」とipe=an「私が・食べる」は同義。yaykata kaがなければ、「彼が私に食べさせた」ともとれる(た

だし、言い直したようにも聞こえる)。前行のa=ereは「私が彼に食べさせた」。

- 5 セコロ ハウエアン ヒ クス , と言うので ,
 sekor hawean hi kusu,
 と 言う なので
- 6 『プイネ アッパ ヤク ピリカ』 『一人でいったらいい』
 ‘puyne arpa yak pirka’
 ひとりで 行く したら いい
- 7 セコロ アイェ ヤッカ と言ったけれど ,
 sekor a=ye yakka
 と (私)言う であっても
- 8 ネンポカ イトゥラ ルスイ ペ ネ ヒ クス 何とか私を連れて行きたいと言うもので ,
 nenpoka i=tura rusuy pe ne hi kusu
 なんとか (私を)連れて したい もの である だから
- 9 アトゥラ ヒネ パイエアン ルウェ ネ アクス , 一緒に行くと ,
 a=tura hine paye=an ruwe ne akusu,
 (私)一緒に行く して 行く(私達) こと である したところ
- [39]-1 ヒネ , アコン ニシパ ホシキ サケ クバ コロ 旦那さんが先に酒を飲んでいる
 18:17 hine, a=kor nispa hoski sake kupa kor
 そして (私)の 旦那 先に 酒 飲む しつつ
- 2 オカ ウシケ タ パイエアン ルウェ ネ ア ヲ , ところに行ったのだったが ,
 oka uske ta paye=an ruwe ne a p,
 いる 所 に 行く(私達) の だったが
- 3 エネ スルク サケ クレバ ヒネ (家の男達が)毒の酒を飲ませて
 ene surku sake kurepa hine
 そのように 毒 酒 飲ませる して
- 4 ライケバ ヒ オラ 『シンキ ワ ネ ナンコロ』 殺しておいて, 『疲れたのだらう』
 raykepa hi ora ‘sinki wa ne nankoro’
 殺す こと そして 疲れる して である だらう
- 5 セコロ ネ ヤ イェバ コロ などと言いながら
 sekor ne ya yepa kor
 と など 言う しつつ
- 6 ウニ ウン ルラパ ルウェ ネ ア ヲ , 家に運んだのだが ,
 uni un rurapa ruwe ne a p,
 家 に 運ぶ の だったが
- 7 エネ オロ タ アッパアン ルウェ ネ アクス , そこに行ってみると
 ene oro ta arpa=an ruwe ne akusu,
 そのように その場所で 行く(私) こと である したところ
- [40]-1 ホシキ イサム カツケマツ ウタラ オカ ヒネ , 先に死んだ奥さん達がいる ,
 18:40 hoski isam katkemat utar oka ⁸² hine,
 先に 死んだ 奥さん 達 いる して
- 2 『タップネ タップネ ネ クス ホクレ キラ。』 『このようなわけだから早く逃げなさい。』
 ‘tapne tapne ne kusu hokure kira.’
 かくかくしかじか である ので 早く 逃げる
- 3 エテックスム アエプンキネ クス ネ ナ』 あなたのそばで守ってあげますよ』
 e=teksam a=epunkine kusu ne na’
 (お前の)そば (私)守る します よ

82 ;前半の同じ場面では, ponmenoko as hine anと単数形だった。ここでも katkemat utar an....oka hine と言い直しているが, 現れた幽霊が, 代表一人だったのか, それとも六

人全員だったのか, 少しわかりにくいところである。

- 4 **セコロ イイエ コロ イカシパオツテ クシケライボ** と言って指示してくれたおかげで、
 sekor i=ye kor i=kaspaotte kuskeraypo
 と (私に)言う しつつ (私に)命じる おかげで
- 5 **キラアン ヒネ ペツ オロ アオシマ ヒケ カ** 逃げて川に入ったけれど、
 kira=an hine pet or a=osma hike ka
 逃げる(私) して 川 の所 (私)入る しても
- 6 **ネフ アエペッチウ カ ソモ キ ノ** なんの心配もなく
 nep a=epetciw ka somo ki no
 何(私)で困った事になる も しない する して
- 7 **トシッ チョロポク タ アエヌワッ ワ** 川岸の洞穴の下でお産をして
 tosir corpok ta a=enuwap wa
 川岸の洞穴 の下 に (私)お産する して
- 8 **エクアン ペ エネ ルウェ ネ」** できたのがおまえなのだよ」
 ek=an pe e=ne ruwe ne”
 来る(私) もの(お前)である こと である
- [41]-1 **セコロ アウヌ ハウエアン オラノ** と、母は言って、
 19:09 sekor a=unu hawean orano
 と (私の)母 言う そして
- 2 **チシ コロ イエ フ ネ クス、** 泣きながら言うので、
 cis kor ye p ne kusu,
 泣く しつつ 言う もの なので
- 3 **ヤイカタ カ チサン コロ アオナハ アケムヌ、** 自分でも泣いて、父を可哀想に思い、
 yaykata ka cis=an kor a=onaha a=kemnu,
 自分 も 泣く(私) しつつ (私の)父 (私)気の毒に思う
- 4 **アウヌフ アケムヌ コロ アナン コロ、** 母を可哀想に思って暮らしていたが、
 a=unuhu a=kemnu kor an=an kor,
 (私の)母 (私)気の毒に思う しつつ いる(私) したが
- 5 **ネウン カ イキアン ワ** どうにかして
 neun ka iki=an wa
 どのように も する(私) して
- 6 **ヤイエイモンタサアン クニ パテク アラム コロ** 敵を討ちたいとばかり考えて、
 yayeymontasa=an kuni patek a=ramu kor
 敵討ちする(私) しようと ばかり (私)思う しつつ
- 7 **エキムネアン トウイカ タ ネ ヤッカ** 山獵に行っているときであっても
 ekimne=an tuyka ta ne yakka
 山に行く(私) している時 に であっても
- 8 **ネ ヤイエイモンタサアン クニ パテク** 敵討ちすることばかりを
 ne yayeymontasa=an kuni patek
 その 敵討ちする(私) しようと ばかり
- 9 **アラム コロ アナン アイネ、** ずっと考えて暮らしていた。
 a=ramu kor an=an ayne,
 (私)思う しつつ いる(私) したあげく
- [42]-1 **オラ タネ ポロアン ヒ クス、** ようやく今は大きくなったので、
 19:37 ora tane poro=an hi kusu,
 そして 今 大きくなる(私) だから
- 2 **「ヤイエイモンタサアン クス アラパアン」** 「敵討ちに行く」
 “ yayeymontasa=an kusu arpa=an ”
 敵討ちする(私) するために 行く(私)

- 3 **クナク アイェ アクス** ,
kunak a=ye akusu,
と (私)言う したところ
- 4 **アウヌフ エアラキンネ イココパン** ,
a=unuhu earkinne i=kokopan,
(私の)母 とても (私に)拒む
- 5 **イエヤム ヤク イェ コロ イココパン コロカ** ,
i=eyam yak ye kor i=kokopan korka,
(私を)心配する と 言う しつつ (私に)拒む けれど
- 6 **「ネウン カ イキアン ワ アラパアン クス ネ」**
"neun ka iki=an wa arpa=an kusu ne"
どのように も する(私) して 行く(私) するつもりだ
- 7 **セコロ ハウエアナン コロ**
sekor hawean=an kor
と 言う(私) しつつ
- 8 **ヤイェトコイキアン ヒネ オラ**
yayetokoyki=an hine ora
身支度する(私) して そして
- 9 **アエフ カ ポロンノ アセ カネ ヒネ**
aep ka poronno a=se kane hine
食べ物 も たくさん (私)背負う して して
- 10 **オラ アラパアン エトコ アオイキ ヒネ**
ora arpa=an etoko a=oyki hine
そして 行く(私) (私)の準備する して
- 11 **オラノ アラパアン。**
orano arpa=an.
そして 行く(私)
- 12 **ソンノ カ アウヌフ エネ ハウエアニ。**
sonno ka a=unuhu ene hawean hi.
やはり本当に (私の)母 次のように言った
- [43]-1
20:04 **「フシコノ ネ ヤッカ**
"huskono ne yakka
とても古い であつても
- 2 **ニ ケウレ オカ アン ナンコロ クス**
ni kewre oka an nankor kusu
木 削る 痕 ある だろう なので
- 3 **ネ ケウレ チクニ エオペシ ワ**
ne kewre cikuni e=opes wa
その 削る 木 (お前)沿う して
- 4 **エアラバ ヤク ピリカ。**
e=arpa yak pirka.
(お前)行く したら いい
- 5 **ヤツ チセ カ アカラ ペ ネ ア コロカ**
yar cise ka a=kar pe ne a korka
木の皮 家 も (私)作る もの である した けれど
- 6 **ネ ヤツ チセ カ タネ ムニン ナンコロ コロカ** ,
ne yar cise ka tane munin nankor korka,
その 木の皮 家 も 今 腐る だろう けれど
- と言うと ,
- 母はとても反対して ,
- 私が気がかりだからと止めたけれど ,
- 「どうしても行くつもりだ」
- と言って ,
- 身支度し ,
- 食べ物もたくさん背負って
- 行く用意をして
- でかけた。
- まさに母がこう言った(通りだった)。
- 「とても古いけれど
- 木に削った痕があるだろうから ,
- その削った木に沿って
- 行きなさい。
- 仮小屋も作ったのだけれど ,
- その仮小屋も今は腐っているだろうけど ,

- 7 **ス アナクネ ニ カ ワ アラチツケレ プ ネ** 鍋は木の上からぶらさげておいた
 su anakne ni ka wa a=racitkere p ne
 鍋 は 木 の上 から (私)ぶらさげる ものである
- 8 **アクス, ネ ス アナクネ アン ナンコロ ナ。** ので, その鍋はあるでしょう。
 akusu, ne su anakne an nankor na.
 したところ その 鍋 は ある だろう よ
- 9 **ネ ス ネ ヤ エオベシ ワ,** その鍋などに沿って,
 ne su ne ya e=opes wa,
 その 鍋 など (お前)沿う して
- 10 **ネ ケウレ チクニ エオベシ ワ エアラパ ヤクン** その削った木に沿って行けば
 ne kewre cikuni e=opes wa e=arpa yakun
 その 削る 木 (お前)沿う して (お前)行く ならば
- 11 **エアラパ エアシカイ ナンコン ナ」** たどり着けるでしょう」
 e=arpa easkay nankor na”
 (お前)行く できる だろう よ
- 12 **セコロ アウヌフ イエバカシヌ ヒ クス,** と母は私に教えてくれたので,
 sekor a=unuhu i=epakasnu hi kusu,
 と (私の)母 (私に)教える ので
- [44]-1 **ネノ ネ フシコノ ネ コロカ** そのように昔のではあるけれど
 20:40 neno ne huskono ne korka
 そのように その とても古い である けれど
- 2 **ケウレ チクニ アオベシ ヒネ アラパアン ヒネ** 削った木に沿って行って,
 kewre cikuni a=opes hine arpa=an hine
 削る 木 (私)沿う して 行く(私) して
- 3 **ネ イシカツ タ アラパアン ヒネ** その石狩に行って,
 ne iskar ta arpa=an hine
 その 石狩 に 行く(私) して
- 4 **ソンノ カ ベックシ タ インネ コタン アン** 本当に川向こうに大きな村がある
 sonno ka petkus ta inne kotan an
 聞いた通り 川向こう に 人口の多い 村 ある
- 5 **ヒ クス, ネ チセ オツ タ** ので, その家に,
 hi kusu, ne cise or ta
 ので その 家 の所 に
- 6 **コタン オルン アラパアン ルウェ ネ ヒネ,** 村に行って,
 kotan or un arpa=an ruwe ne hine,
 村 の所 に 行く(私) こと である して
- 7 **ナニ アウオシマアン,** すぐに
 nani awosma=an,⁸³
 すぐ 家の中へ入る(私)
- 8 **チセ オンナイ アウオシマアン ルウェ ネ。** 家の中へ乗り込んだ。
 cise onnay awosma=an ruwe ne.
 家 の中 家の中へ入る(私) こと である
- [45]-1 **アクス, オンネ クル ルツネマツ アン,** すると, 老人と老女がいて,
 21:08 akusu, onne kur rupnemat an,
 したところ 年老いた 人 老女 いる

83 ; aw-osma 「家の中・に入る」。敵討ちにやってきたのだから注39で触れたような家に入る際の習わしを破って, いきなり入ったのは当然である。

- 2 **ネ イユフネ クル ウタラ ネ クニ** 兄たちと
ne iyupne kur utar ne kuni
その 兄である 人 達 である と
- 3 **アラム フ カ オカ, シネ イマタクネ** 思われる人達もいて、ひとり妹である
a=ramu p ka oka, sine imatakne
(私)思う もの も いる 一人の 妹である
- 4 **メノコ アン ペ ネ セコロ アウヌフ** 女の子がいて母が
menoko an pe ne sekoro a=unuhu
女 いる もの である と (私の)母
- 5 **イエ フ ネ ア フ, ネ メノコ タクピ** 言っていたが、その女の子だけが
ye p ne a p, ne menoko takupi
言う もの だったが その 女 ばかり
- 6 **モイモイケ コロ アン ヒ クス,** 働いていた。
moymoyke kor an hi kusu,
動く しつつ いる だから
- 7 **オロ タ アウオシマアン ヒネ** そこで私はその家に踏み込んで行って、
oro ta awosma=an hine
その場所で 家の中へ入る(私) して
- [46]-1 **エネ オンネ クル エウン** その老人に、
21:27 ene onne kur eun
このように 年老いた 人 に
- 2 **「イエラミシカリ ヤ？」** 「俺がわからないか」
“ i=eramiskari ya? ”
(私を)知らない か
- 3 **セコロ アコウエペケンヌ アクス,** と聞くと、
sekoro a=kouepekennu akusu,
と (私)事情を尋ねる したところ
- 4 **「アエラミシカリ, シケトクナ ワ アエラミシカリ」** 「知らない、まったく見覚えがない」
“ a=eramiskari, siketokna wa a=eramiskari⁸⁴ ”
(私)知らない 見覚えがない して (私)知らない
- 5 **セコロ カンナ ルイノ ハウエアン ヒ クス,** と(老人が)再三言い放つので、
sekoro kanna ruyno hawean hi kusu,
と 重ねて 激しく 言う だから
- 6 **「アオナハ エチスルク サケ ソモ クレ フ ア？」** 「父に毒の酒を飲ませなかったか」
“ a=onaha eci=surku⁸⁵ sake somo kure⁸⁶ p a? ”
(私の)父 (お前達の)毒 酒 しない 飲ませる もの か
- 7 **セコロ アコウエペケンヌ アクス, オラ** と聞くと、
sekoro a=kouepekennu akusu, ora
と (私)事情を尋ねる したところ そして
- 8 **エアシリ ネフ カ エキマテクパ ルウェ ネ** 皆初めて何かにあわてふためいた
easiri nep ka ekimatekpa ruwe ne
初めて 何 か あわてる こと である
- [47]-1 **ノイネ オカ, ラポッケ ナニ** ようだった。私は間髪入れず
21:54 noyne oka, rapokke nani
ようで いる その間に すぐ

84 ; siketokna wa eramiskari 「まったく見覚えがない」

85 ; eci=は、二人称複数の人称接辞で、「お前達が/の/を/に。」名詞についた場合は「お前達の。」

surkuは、「毒」でもとりわけトリカブトをさす。

86 ; somo kureは「しない・飲ませる」「飲ませない。」

- 2 **サパウシペ ネ オンネ クル アテッコノイエ** その老人(の髪)をむんずとつかみ,
sapauspe⁸⁷ ne onne kur a=tekkonoye⁸⁸
髪 その 年老いた 人 (私)引っ掴む
- 3 **オトピ アホトゥリトゥリ, アヌヤヌヤ コロ** 伸しては畳み,
otopi a=hoturituri,⁸⁹ a=nuyanuya⁹⁰ kor
髪 (私)引っ張る (私)揉み揉みする しつつ
- 4 **アトイコキッキク ヒネ** 殴って殴って殴りとばし,
a=toykokikkik⁹¹ hine
(私)ひどく殴る して
- 5 **ネ ルフネマツ ネ ヤッカ** その老女だろうが
ne rupnemat ne yakka
その 老女 であつても
- 6 **(ネ イボネ) イユフネ クル ウタラ ネ ヤッカ** 義兄達だろうが
(ne ipone) iyupne kur utar ne yakka
その 息子である 兄である 人 達 であつても
- 7 **ウコクシシ アウコキッキク.** 誰かれかまわずボコボコに殴りつけた。
ukokusis a=ukokikkik.
ともに (私)殴る
- 8 **ウコキリリセバ ヤッカ キリリセバ ヒ カ** 皆がキーキー泣き叫ぼうが喚こうが
ukokirirsepa⁹² yakka kirirsepa hi ka
皆で叫ぶ であつても 叫ぶ こと も
- 9 **アヌ フミ カ イサムノ オピッタ, レン オピッタ** 聞く耳持たず, 三人まとめて
a=nu humi ka isamno opitta ren⁹³ opitta
(私)聞く 様子 も なしに 皆 三人 皆
- 10 **アライケ ヒネ エソイネ アルラ ヒネ** 皆殺しにして, 外に放り出して
a=rayke hine esoyne a=rura hine
(私)殺す して 外に (私)運ぶ して
- 11 **アトゥムンコウファイカ ルウェ ネ。 アクス,** ごみと一緒に燃やしてしまった。すると
a=tumun-ko-uhuyka⁹⁴ ruwe ne. akusu,
(私)ほこりと一緒に燃やす こと である したところ
- [48]-1 **コタン コロ ウタラ イカオパシ ヒネ アラキパ ヒネ,** 村人達が駆けつけて来て,
22:35 kotan kor utar ikaopas hine arkipa hine,
村 の 人達 駆けつける して 来る して
- 2 **「エネ ニシパケムヌアン ア フ,** 「私達はあの旦那さんを気の毒に思っ
" ene nispa-kemnu=an a p,
そのように 旦那を気の毒に思う(私)だったが いたが,
- 3 **タネ パラコラチツケパ」ヒケ ハウエオカバ コロ** 今や罰が下ったのだ」と言つて,
tane parkoracitkepa⁹⁵ hike haweokapa kor
今 罰が下る したと 言う しつつ
- 4 **エヘセ ヒ イェ ロク イェ ロクパ コロ** 「ほっとした」「胸がすく」と口々に言い,
ehese⁹⁶ hi ye rok ye rokpa⁹⁷ kor
~でほっとすること 言う(何回も) 言う(何回も) して

87 ; sapa-us-pe 「頭・生える・もの」=髪之毛

88 ; tek-ko-noye 「手・と共に・ねじる」

89 ; ho-turi-turi 「尻・伸ばす・伸ばす」

90 ; nuya-nuya 「揉む・揉む(こする・こする)」

91 ; toyko-kikkik 「徹底的に・ほかほか殴る」

92 ; u-ko-kirkir-se-pa 「互い・と共に・キーキー・言う・(複)」=皆で何回も悲鳴をあげる。

93 ; なぜ四人でなく三人なのか不明。

94 ; tumun-ko-uhuyka 「ほこり・と共に・燃やす」

95 ; このセリフは主語がわかりづらいが, 村人たちが気の毒に思った "nispa" とは毒殺された叙述者の父, 罰が下ったのは父を毒殺したこの家の人々。

96 ; e-he-se 「~について・へー(息を表す擬音)・と言う」久保寺辞典には「溜飲をさげる, 鬱憤をはらす」とある。

97 ; rok rokは, a aの複数形。それにさらに「何人もが/何回も」を表す-paがついている。

- 5 **オラ ナニ ネア アオナハ ネ クニ**
ora nani nea a=onaha ne kuni
そして すぐ 件の (私の)父 である と
それから、早速父のものであると
- 6 **アラム チセ オルン アラパアン。**
a=ramu cise or un arpa=an.
(私)思う 家 の所 に 行く(私)
思われる家に私は(一人で)向かった。
- 7 **オホンノ タネ シラン ペ ネ クス,**
ohonno tane siran pe ne kusu,
長い間に 今や 時がたつ もの なので
長く時間が経ったので、
- 8 **チセ オンナイ ネ ヤッカ トゥムン ネ ヤ**
cise onnay ne yakka tumun ne ya
家 の中 であつても ほこり とか
家の中も、ほこりや
- 9 **ハンケ プンカラ トゥイマ プンカラ**
hanke punkar tuyma punkar
近く 蔓 遠く 蔓
あちらこちらに蔓がびっしり
- 10 **コノイノイケ ワ アン ウシケ タ**
konoynoyke wa an uske ta
からまる して いる 所 に
からまったところに
- [49]-1
23.07 **コタン コロ ウタラ アラキバ ワ**
kotan kor utar arkipa wa
村 の 人達 来る して
村人達がやってきて、
- 2 **シツチャシヌレ イエカスイ,**
sir-casnure i=ekasuy,
辺りを掃除すること (私を)手伝う
掃除を手伝ってくれたり、
- 3 **トマ スプ コロ ワ アラキバ ワ**
toma sup kor wa arkipa wa
莫座 巻いた物 持つ して 来る して
巻いた莫座を持って来て
- 4 **トマソカラ ネ ヤ キ ワ**
tomasokar ne ya ki wa⁹⁸
莫座の座を作る など する して
座をしつらえたりした。
- 5 **「オロ タ アオナハ テ タ ネ**
“oro ta a=onaha te ta ne
この場所で (私の)父 ここ で である
「ここで父が
- 6 **ライ ウシ ネ ヤ」**
ray usi ne ya ”
死ぬ ところ である か
死んだのか」
- 7 **セコロ ハウェアナン コロ チサン コロ**
sekor hawean=an kor cis=an kor
と 言う(私) しつつ 泣く(私) しつつ
と言って私は泣いて、
- 8 **オラ オロ タ アペリアン。**
ora oro ta apear=an.
それから その場所で 火を焚く(私)
そこで火を焚いた。
- 9 **コタン コロ ウタラ イカスイ ワ スケアン ワ**
kotan kor utar i=kasuy wa suke=an wa
村 の 人達 (私を)手伝う して 料理する(私)して
村人達に手伝ってもらって料理をし、

98；莫座を持ってきて敷く(座を作る)というのは、儀式的準備をするという描写である。ここでは主人公の父親をはじめ、悪い祖父達に殺された人達の供養の儀式を始め

ること指している。

- 2 **アウヌ イエポタラ クニ アラム ヒ クス** 母が心配すると思うので、
 a=unu i=epotara kuni a=ramu hi kusu
 (私の)母 (私を)心配する と (私)思う だから
- 3 **ホシピアン クナク アイェ アクス,** 帰ろうと言うと、
 hosipi=an kunak a=ye akusu,
 帰る(私) しようと (私)言う したところ
- 4 **ネ コタン コロ ウタラ** その村人達、
 ne kotan kor utar
 その 村 の 人達
- 5 **イルラ クナク イェ ウタラ** 私を送っていくという人達が、
 i=rura kunak ye utar
 (私を)送って行く と 言う 人達
- 6 **オラ アオナ コロ ワ オカイ ペ オピッタ** 父の持ち物を全部、
 ora a=ona kor wa okay pe opitta
 そして (私の)父 持つ して いる もの 皆
- 7 **ピリカ フ ネ ヤッカ ウェン ペ ネ ヤッカ** いいものも悪いものも
 pirka p ne yakka wen pe ne yakka
 いい もの であっても 悪い もの であっても
- 8 **オピッタ アウオマレ ヒネ** 全部集め、
 opitta a=uomare hine
 皆 (私)集める して
- 9 **ネ イルラ ウタラ ポロ シケ キ ヒネ** 大きな荷物を背負って
 ne i=rura utar poro sike ki hine
 その (私を)送る 人達 大きい 荷を背負うこと する して
- 10 **オラノ イルラ ヒネ アキアン ヒネ** 私を送って来てくれて、
 orano i=rura hine arki=an hine
 そして (私を)送る して 来る(私達) して
- 11 **アコタヌ アウヌフ アコシレバ。** 私の村、母のところへ私達は着いた。
 a=kotanu a=unuhu a=kosirepa.
 (私の)村 (私の)母 (私)に着く
- [52]-1 **オラノ アウヌ チシ コロ** すると、母は泣いて
 24:43 orano a=unu cis kor
 そして (私の)母 泣く しつつ
- 2 **イコブンテク ア イコブンテク ア** 喜んで喜んで、
 ikopuntek a ikopuntek a
 喜ぶ (何度も) 喜ぶ (何度も)
- 3 **オラ ネ イルラ ウタラ ネ ヤッカ** そして私を送ってくれた人達にも
 ora ne i=rura utar ne yakka
 そして その (私を)送る 人達 であっても
- 4 **アコヤイライケ ヒ アイェ コロ オカアン ヒケ** 私達はお礼を述べていたが、
 a=koyairayke hi a=ye kor oka=an hike
 (私)~に感謝する こと(私)言う しつつ いる(私達) が
- 5 **オラ ホシッパ, コタヌン ホシッパ** 村に帰ろう
 ora hosippa, kotan un hosippa
 そして 帰る 村 に 帰る
- 6 **クナク イェ ウタラ カ オカ,** という人達もあれば、
 kunak ye utar ka oka,
 しようと 言う 人達 も いる

- 7 **ホシッパ ソモ キ ノ**
hosippa somo ki no
帰る しない する して
帰らないで
- 8 **ナニ イエコタンネ ルスイ**
nani i=ekotanne rusuy
すぐ (私に)の村に住む したい
すぐここに住みたい
- 9 **セコロ ハウェオカ ウタラ カ オカ ヒネ,**
sekor haweoka utar ka oka hine,
と 言う 人達 も いる して
という人達もいて、
- 10 **ナニ イエコタンネ ウタラ アナクネ**
nani i=ekotanne utar anakne
すぐ (私に)の村に住む 人達 は
すぐ住みたいという人達は
- 11 **アコタヌ タ アン クニ ネ,**
a=kotanu ta an kuni ne,
(私)の村 に 暮らす するようになる
私達の村で暮らすようになり、
- 12 **ネ モヨ コタン ネ オカアン ヒネ,**
ne moyo kotan ne oka=an hine,
その 人の少ない 村 として 暮らす(私達) して
小さい村をなして私達は暮らした。
- [53] -1
25:14 **オラ アウヌ アナクネ エネ シリキラフ**
ora a=unu anakne ene sirkirap
そして (私の)母 は このように 苦労すること
母はこのように苦労
- 2 **パテク キ プ ネ アクス,**
patek ki p ne akusu,
ばかり する もの である したところ
ばかりした人であって、
- 3 **タネ オンネ ッ ネ クス**
tane onne p ne kusu
今 年をとる もの である ので
今は年をとったので、
- 4 **ホク カ サク ノ ネ コロカ,**
hoku ka sak no ne korka,
夫 も なしに である けれど
旦那さんもなしにはあるけれど、
- 5 **アピリカヌヌケ コロ オカアン。**
a=pirka-nunuke kor oka=an.
(私)よく面倒を見る しつつ 暮らす(私達)
(その分も)私が孝行して暮らした。
- 6 **ラポッケ ヤイカタ カ ピリカ メノコ**
rapokke yaykata ka pirka menoko
そのうち 自分 も 美しい 女
そのうち私は美しい女と
- 7 **アエトゥン ヒネ ポ カ アコロ**
a=etun hine po ka a=kor
(私)嫁を貰う して 子供 も (私)持つ
結婚して、子供も持った
- 8 **シリ カ アウヌフ カ ヌカラ**
siri ka a=unuhu ka nukar
様子 も (私の)母 も 見る
様子を母も見て、
- 9 **オラ アコロ エカシ カ アコロ フチ カ**
ora a=kor ekasi ka a=kor huci ka¹⁰¹
そして (私)の 祖父 も (私)の 祖母 も
祖父も祖母も

101 ; ekasi, huci は老人に対する尊称であるのに対し、これまで出てきた onne kur, rupnemat は、尊敬の意は含まない。

- 10 **アオナ ネ クル カ アヌカラ カ** 父である人も
 a=ona ne kur ka a=nukar ka
 (私の)父 である 人 も (私)見る も
- 11 **エラミシカリ ノ ポロアン ペ ネ コロカ,** 見たこともないまま大きくなった私では
 eramiskari no poro=an pe ne korka,
 したことがない して 大きくなる(私)もの である けれど
- 12 **アコロ エカシ フチ アオナハ** 祖父, 祖母, 父を
 a=kor ekasi huci a=onaha
 (私)の 祖父 祖母 (私の)父
- 13 **アヌラッパ コロ オカアン...アナン アイネ,** 供養しながら暮らして,
 a=nurappa kor oka=an ... an=an ayne,
 (私)供養する しつつ いる(私達) いる(私) したあげく
- [54] -1 **ラボッケ アウヌ オンネ ワ イサム オカ タ** そのうち母が死んだ後に
 25.57 rapokke a=unu onne wa isam oka ta
 そのうち (私の)母 年をとる して 死ぬ の後 に
- 2 **ヤイカタ カ ポ カ ポロンノ アコロ ヒネ** 私も子供をたくさん持って
 yaykata ka po ka poronno a=kor hine
 自分 も 子供 も たくさん (私)持つ して
- 3 **オンネアン ルウェ ネ コロカ,** 年をとったのであるが,
 onne=an ruwe ne korka,
 年をとる(私) こと である けれど
- 4 **「ネイ パクノ アポウタリ カ** 「いつまでも子供達よ,
 “ ney pakno a=poutari ka
 いつ までも (私の)子供達 も
- 5 **アコロ エカシ アオナ フチ ヌラッパ ワ** 私の祖父母, 父を供養して
 a=kor ekasi a=ona huci nurappa wa
 (私)の 祖父 (私の)父 祖母 供養する して
- 6 **イコレ ヤク ピリカ ナ」セコロ** おくれ」と
 i=kore yak pirka na” sekor
 (私に)くれる したら いい よ と
- 7 **イタクムイエアン コロ オンネアン セコロ** 言い残して死んでいくのだ, と
 itakmuye=an¹⁰² kor onne=an sekor¹⁰³
 言い残す(私) しつつ 死ぬ(私) と
- 8 **シネ アイヌ オッカイボ イソイタク セコロ.** ひとりの男が語ったと。
 sine aynu okkaypo isoytak sekor.
 一人の 人間 男 物語る と

102 ; itakmuye は「言い残す。言い置く。遺言する」と中川辞典にはあるが、ウエベケレの本質をよく言い表した言葉である。

103 ; この sekor の前後では叙述者が変わる。それまでの「私」は、最後の行で「ひとりの男」と、三人称で語られている。つまり, sekor 以前は全体が長い引用文だったわけで、最後の一行にきて叙述者と語り手が一致し、語り手自らの言葉で語る形になっている。これはどのウエベケレに

も見られる特徴である。

アイヌ民族博物館伝承記録3・昔話

上田トシのウエペケレ

- 発行日 1997年3月31日
- 編集・発行 財団法人アイヌ民族博物館
〒059-09 北海道白老郡白老町若草町2-3-4
TEL 0144-82-3914 FAX 0144-82-3685
- 印刷・製本 (株)北海道機関紙印刷所
〒006 札幌市北区北6条西7丁目
TEL 011-716-6141
- C D 製作 高速録音株式会社
〒113 東京都文京区本郷1-20-9
TEL 03-3814-2721